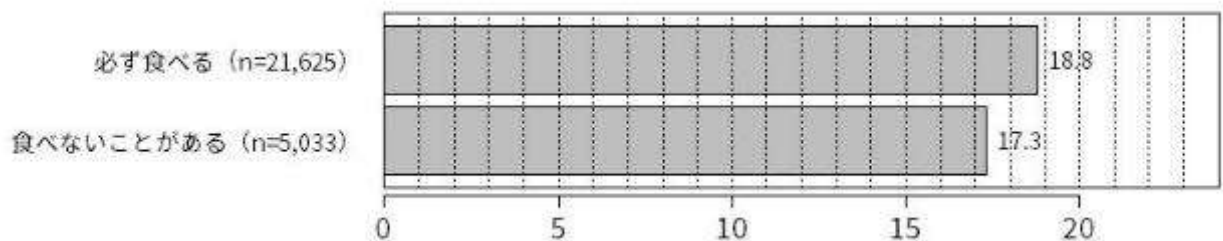


昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 7 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

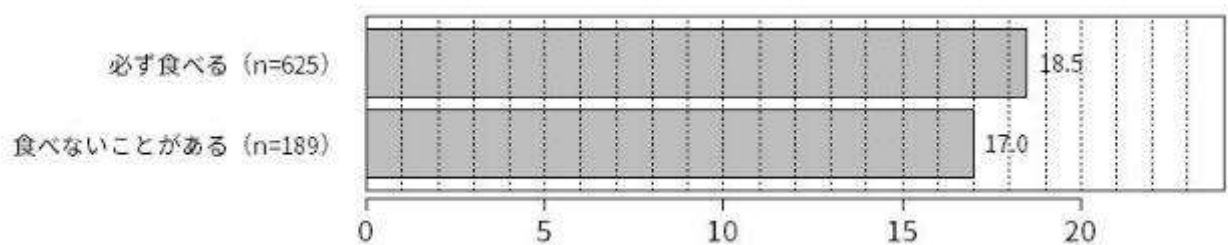
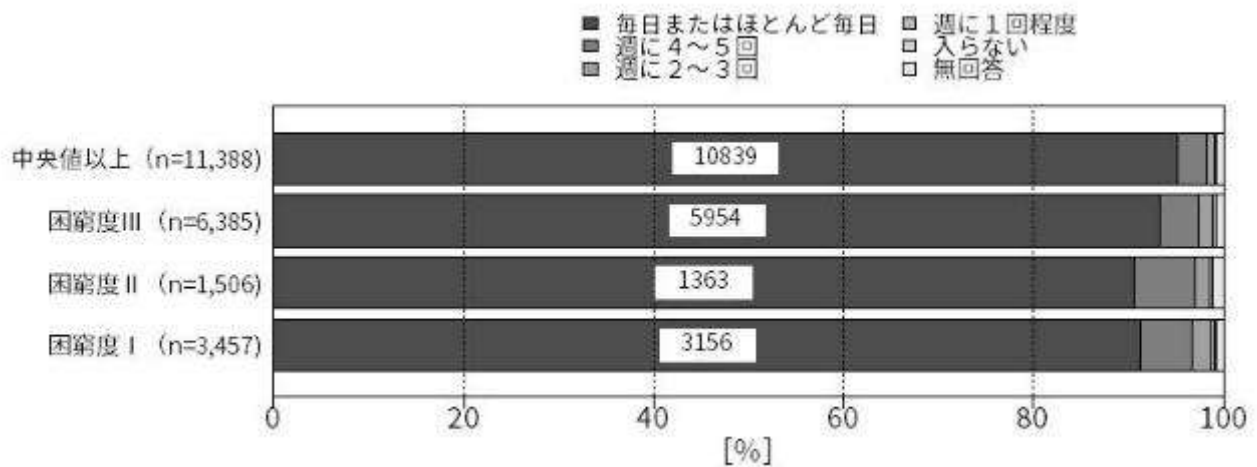


図 190. 昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が 18.5 点であるのに対して、「食べないことがある」と回答した人は 17.0 点であった。

困窮度別に見た、入浴頻度（子ども票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

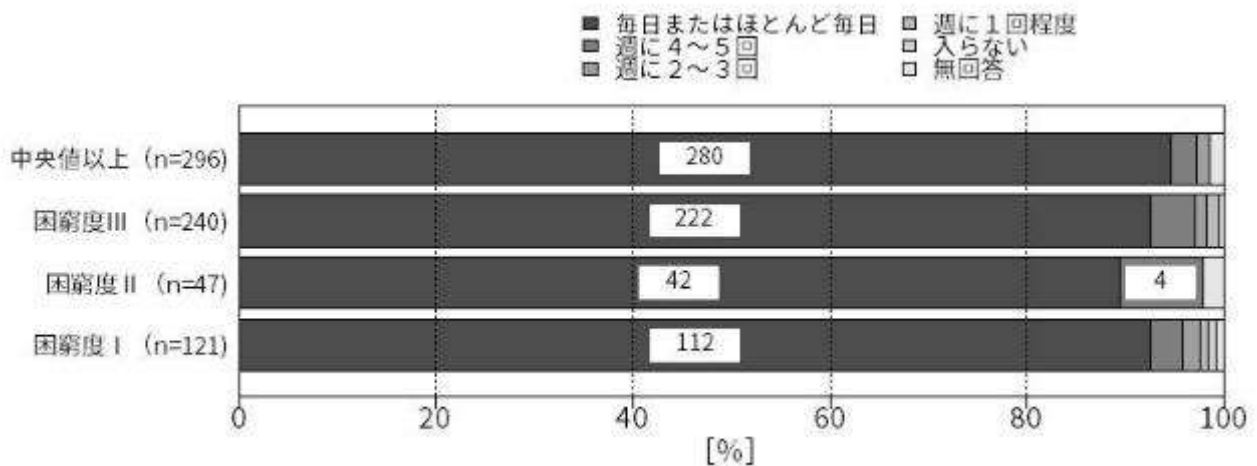
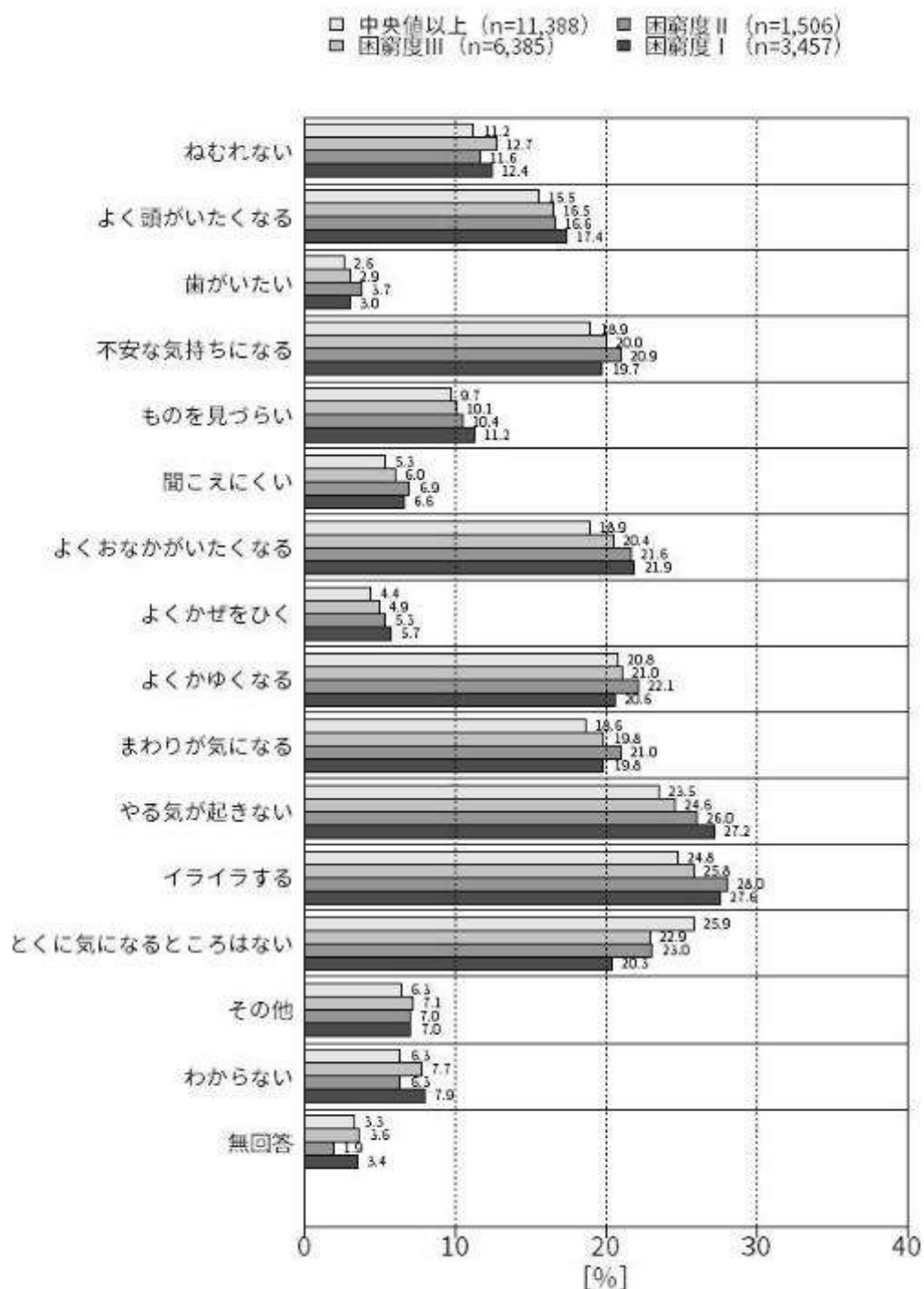


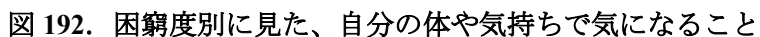
図 191. 困窮度別に見た、入浴頻度

困窮度別に入浴頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合は中央値以上群では94.6%、困窮度Ⅰ群では92.6%であった。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（子ども票 問 24）

<大阪市 24 区>

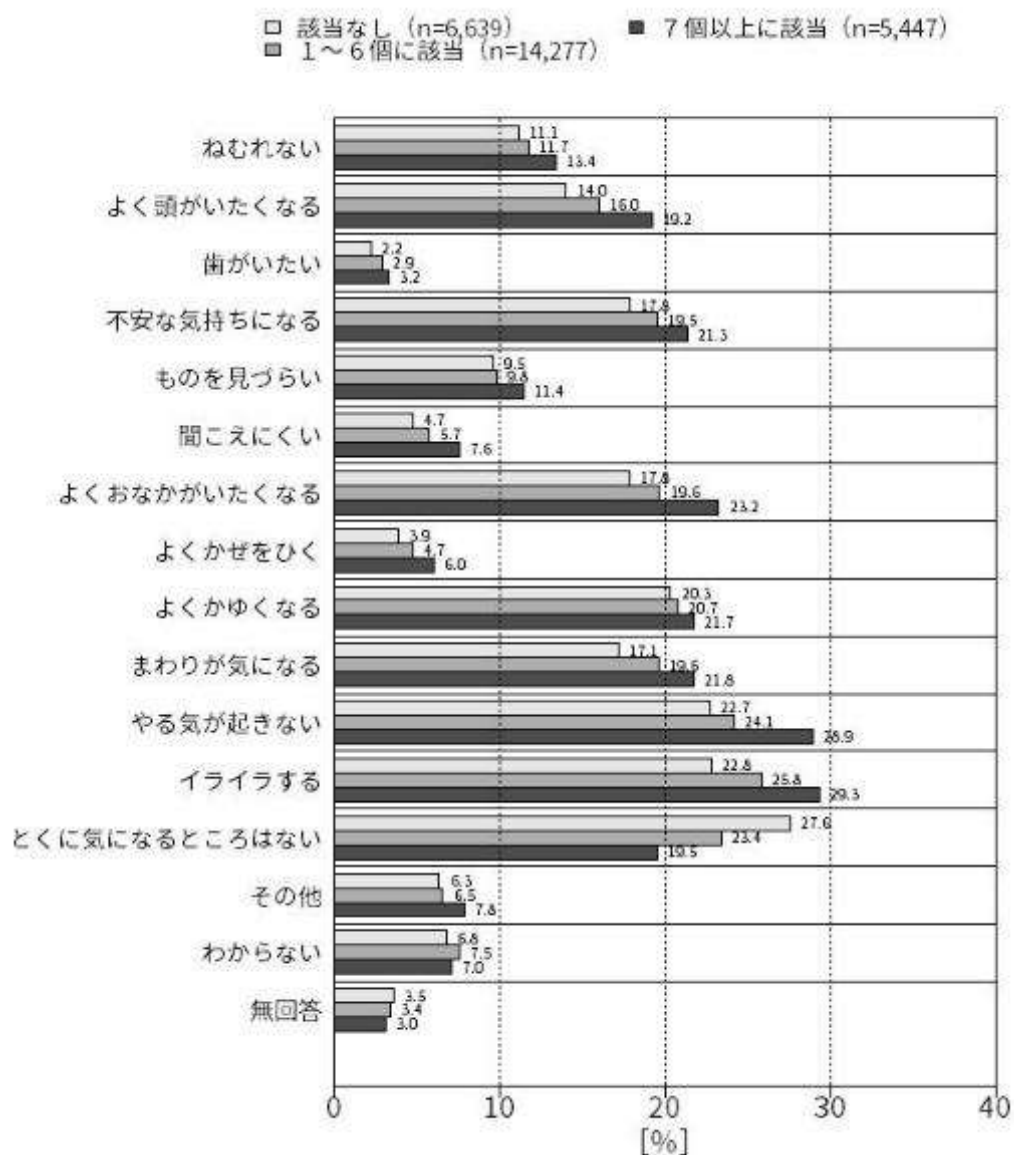




経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

(保護者票 問7 × 子ども票 問24)

<大阪市24区>



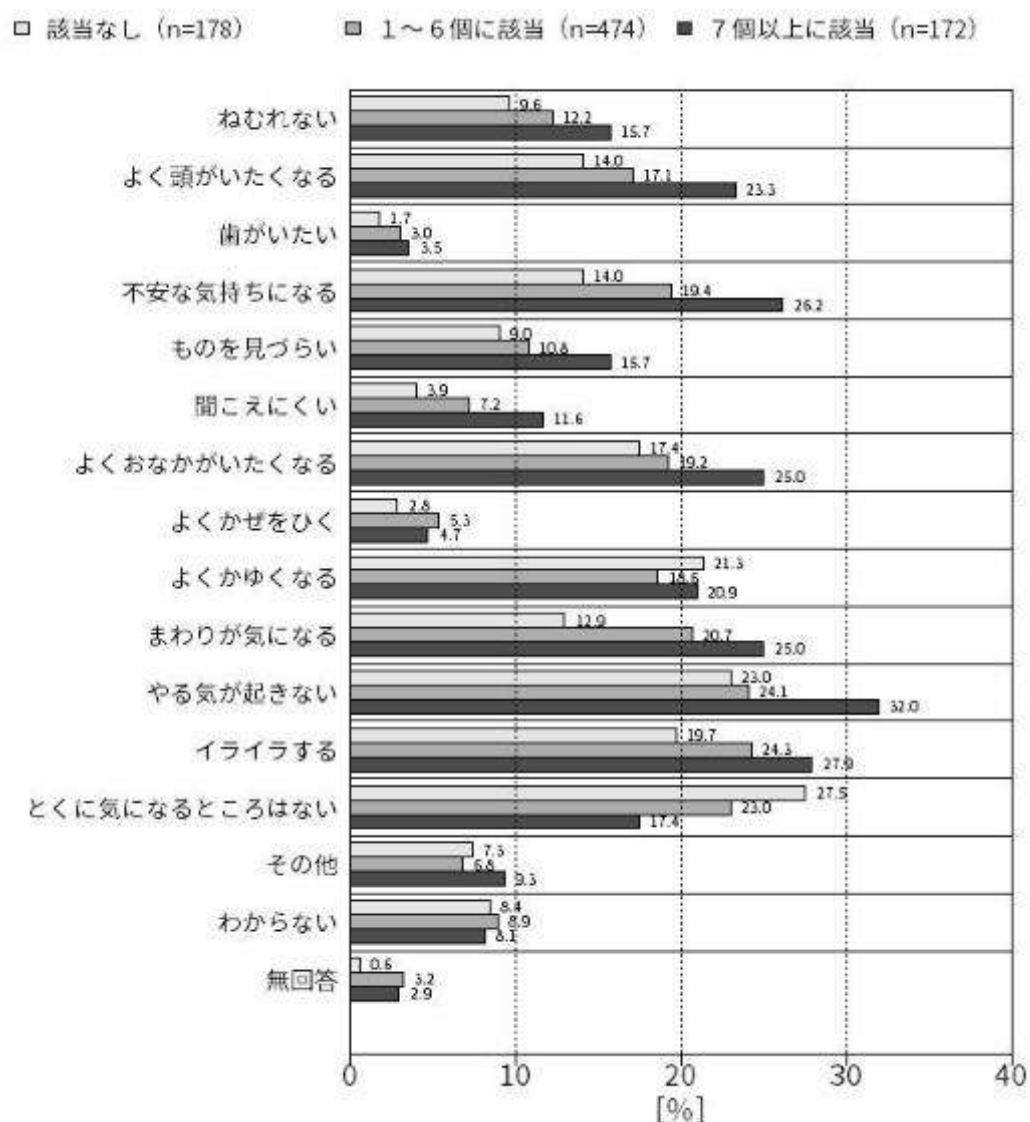
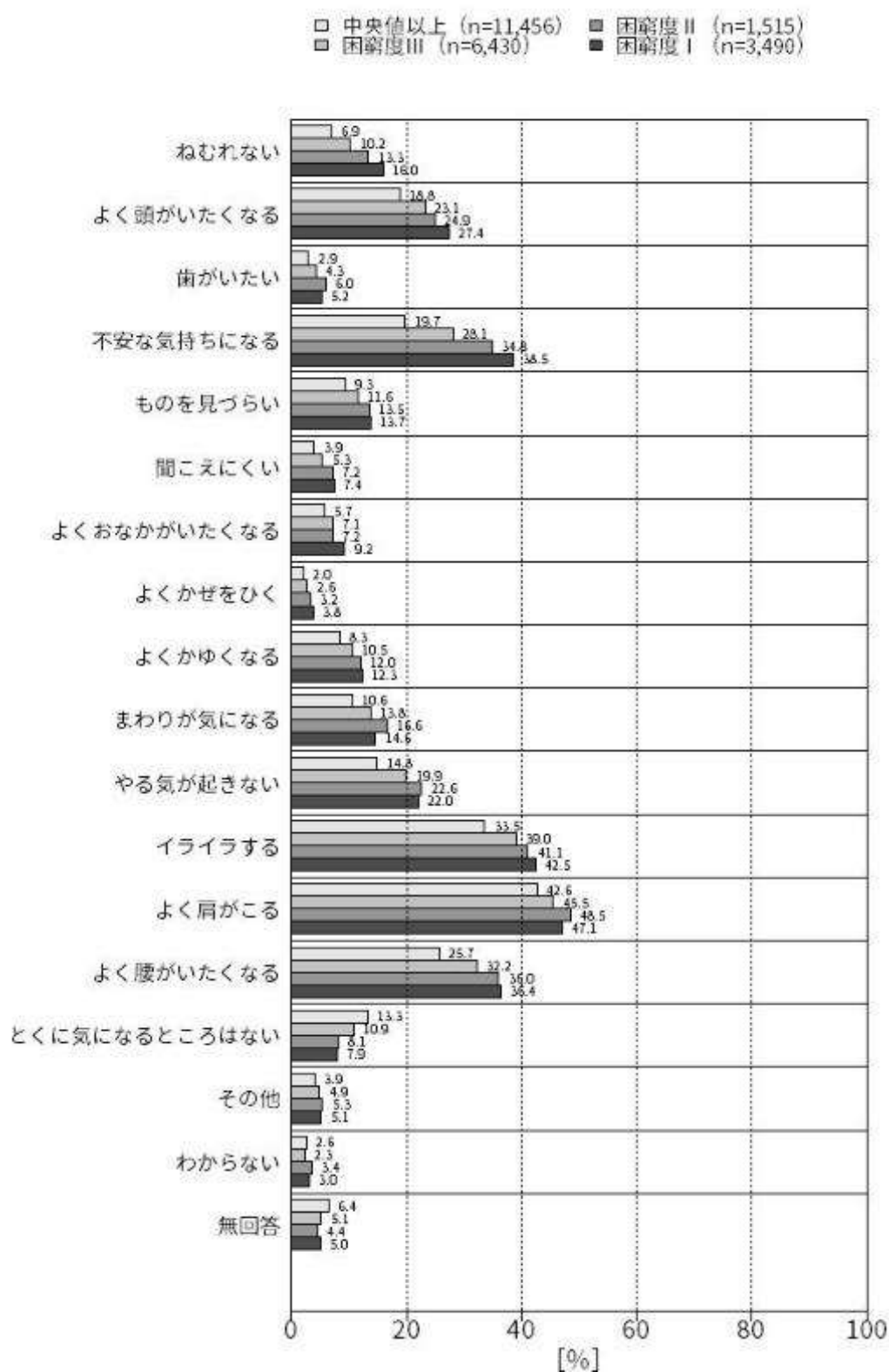


図 193. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上該当」群の数値を挙げると、「聞こえにくい」11.6%（「該当なし」に対し3.0倍）、「歯がいたい」3.5%（2.1倍）、「まわりが気になる」25%（1.9倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「不安な気持ちになる」26.2%（1.9倍）、「ものを見づらい」15.7%（1.7倍）、など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票 問 26）

<大阪市 24 区>



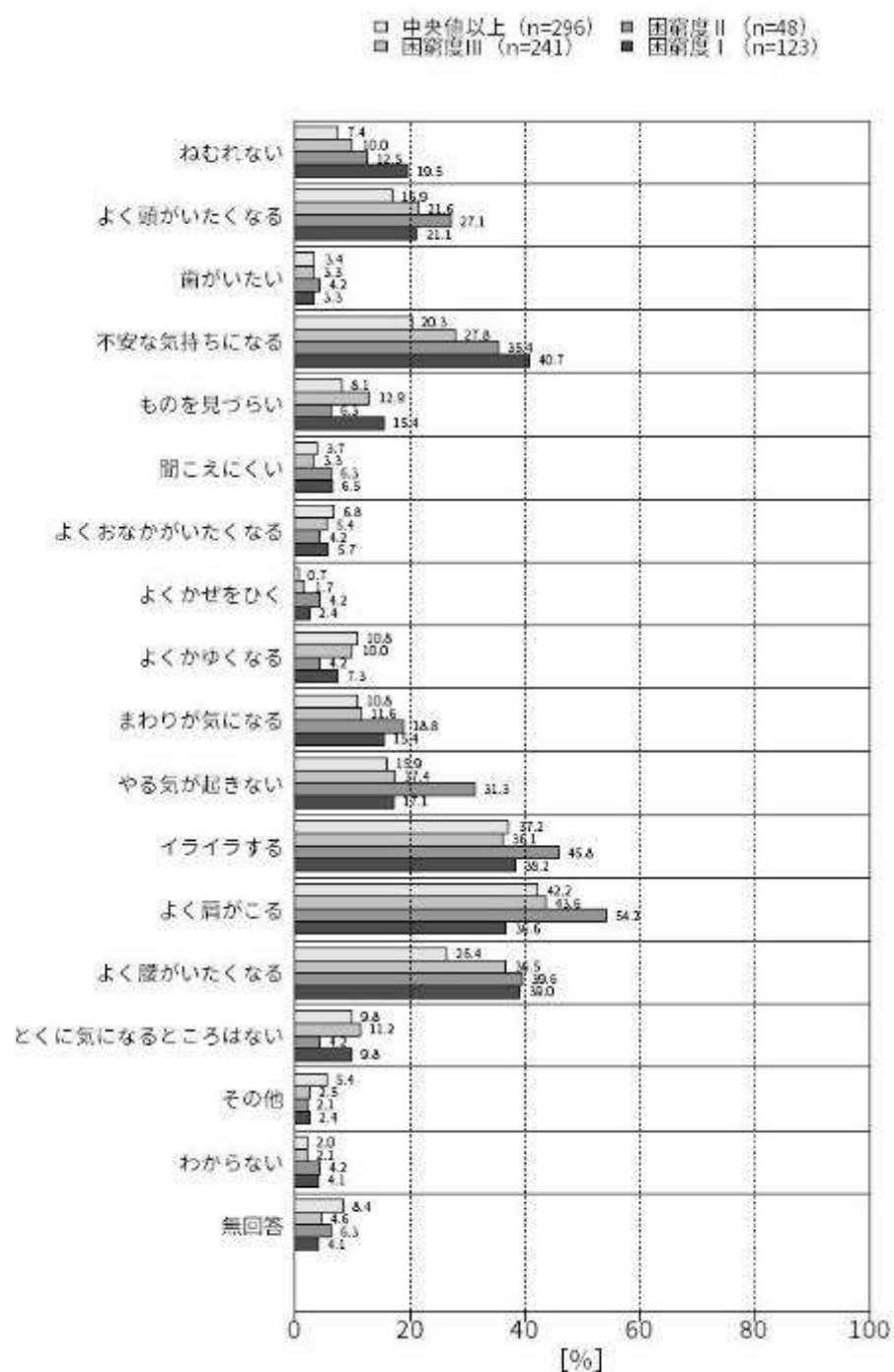


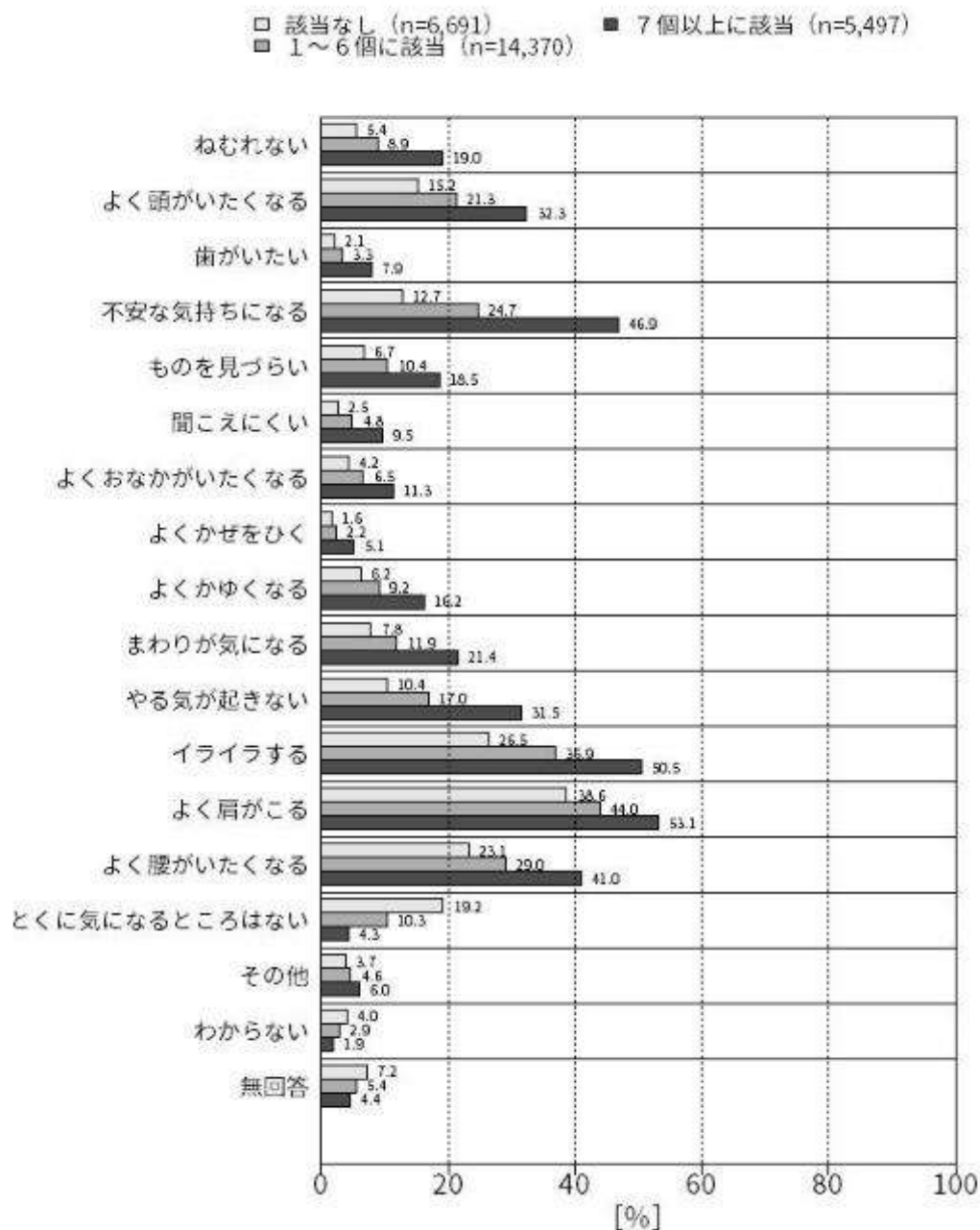
図 194. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」2.4%（中央値以上群に対して、3.4 倍）、「ねむれない」19.5%（2.6 倍）、「不安な気持ちになる」40.7%（2.0 倍）となっている。つづいて、「ものを見づらい」15.4%（1.9 倍）、「聞こえにくい」6.5%（1.8 倍）という影響もみられた。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

(保護者票 問 7 × 保護者票 問 26)

<大阪市 24 区>



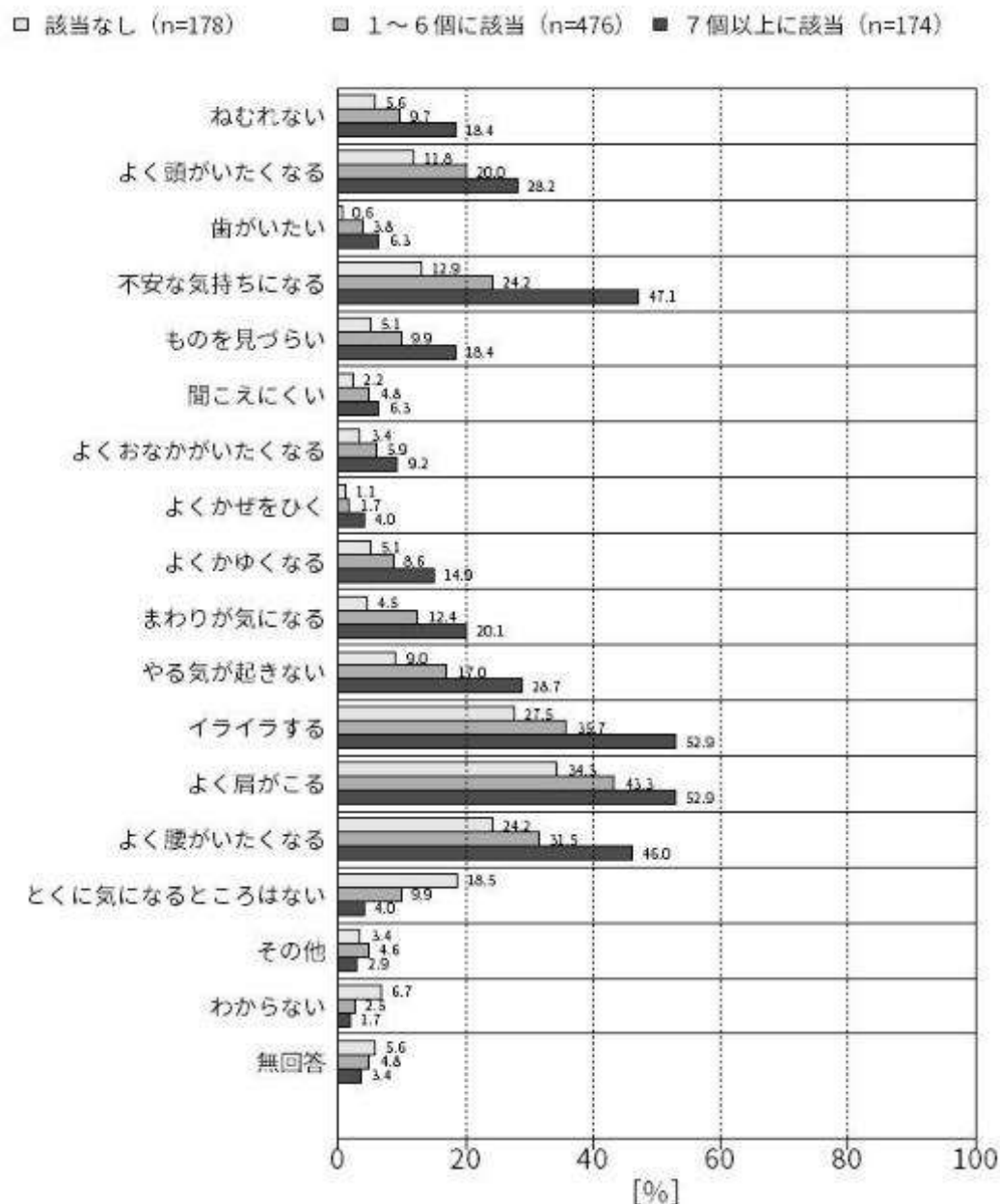
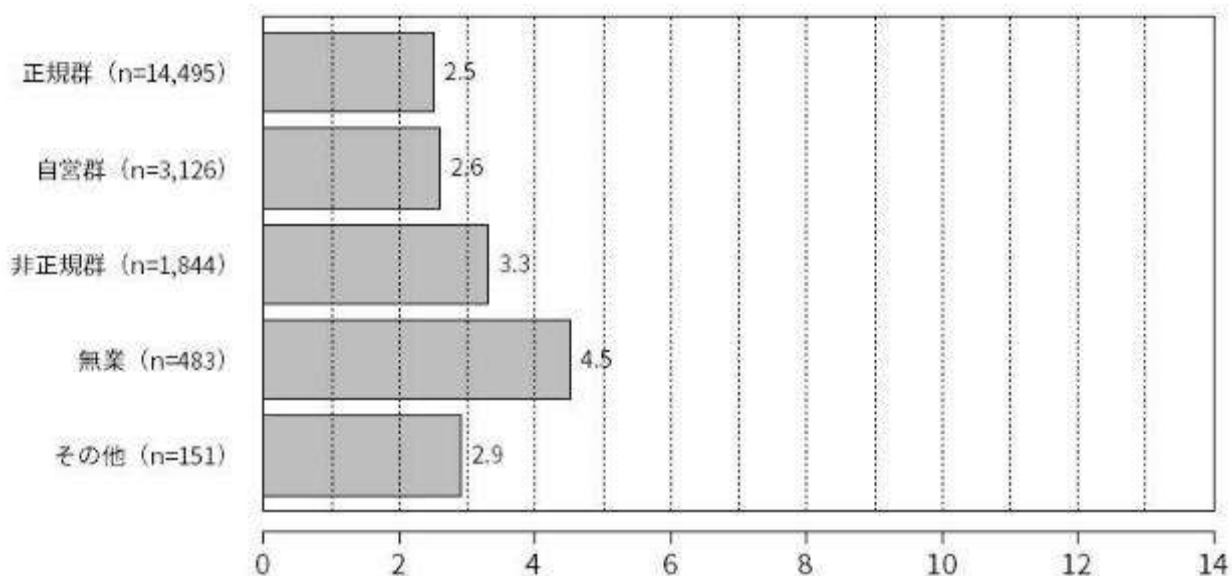


図 195. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「歯がいたい」6.3%（「該当なし」に対し10.5倍）、「まわりが気になる」20.1%（4.5倍）、「不安な気持ちになる」47.1%（3.7倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「イライラする」52.9%（1.9倍）、「やる気が起きない」28.7%（3.2倍）など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

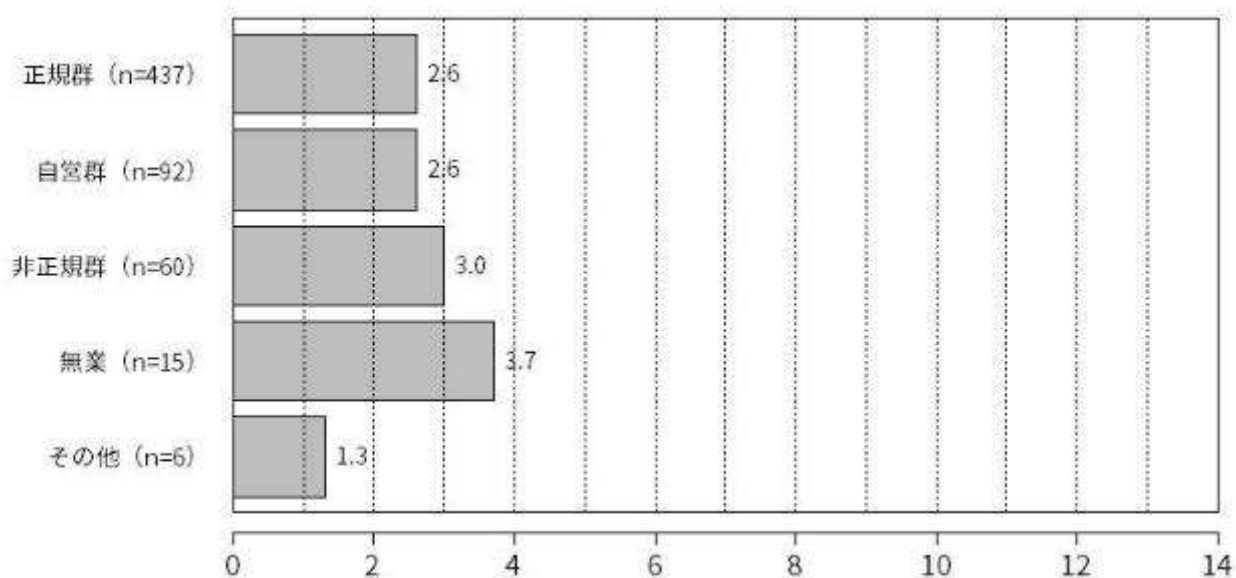


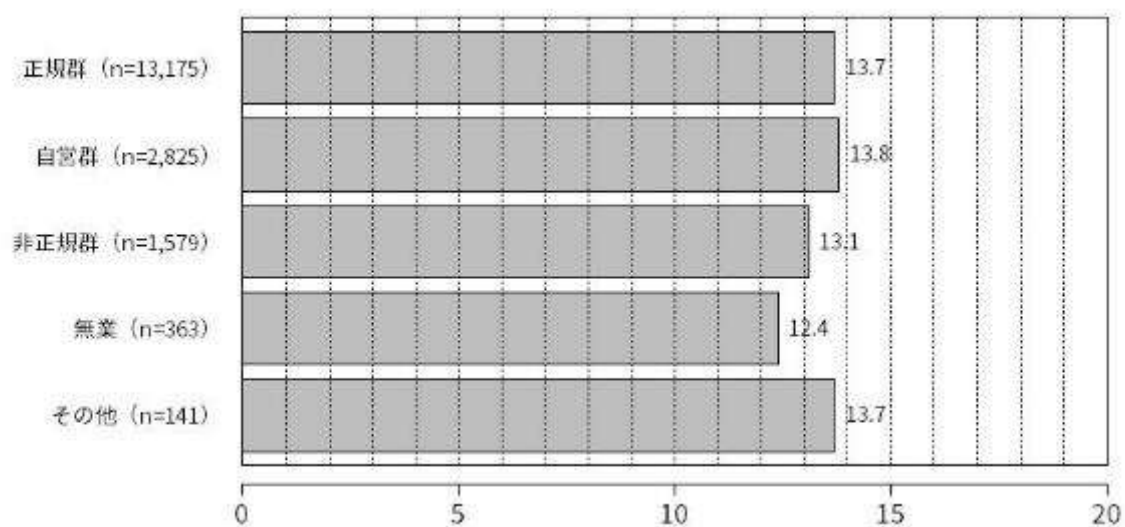
図 196. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」では 2.6 個、「自営業」では 2.6 個、「非正規群」では 3.0 個、「無業」群では 3.7 個であった。

就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※成田・下仲・中里他（1995）の特性的自己効力感尺度より「自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある」、「はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける」、「人の集まりの中では、うまくふるまえない」、「私は自分から友達を作るのがうまい」、「人生で起きる問題の多くは自分では解決できない」の5項目を抽出して使用した。それぞれの項目について、「そう思う」～「思わない」までの4段階で評価させ、5項目の合計得点を大人のセルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

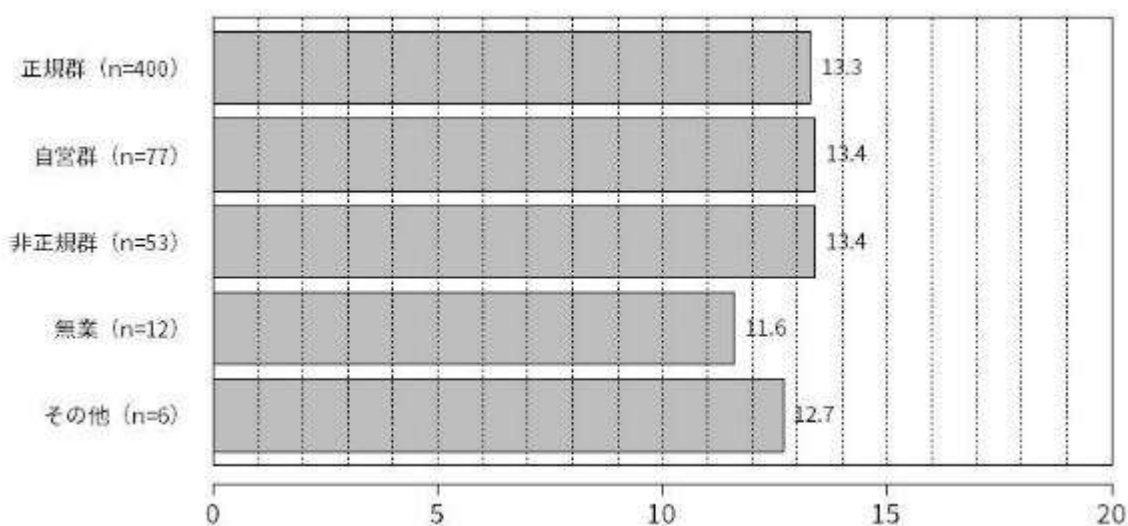


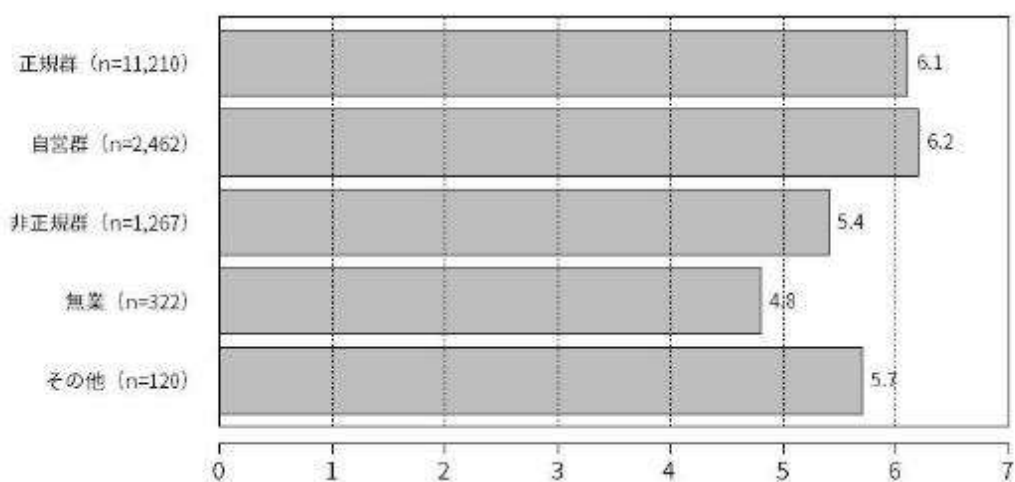
図 197. 就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

就労状況別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「正規群」では 13.3 点、「自営業」では 13.4 点、「非正規群」では 13.4 点、「無業」群では 11.6 点であった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票 問 23①～⑦）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

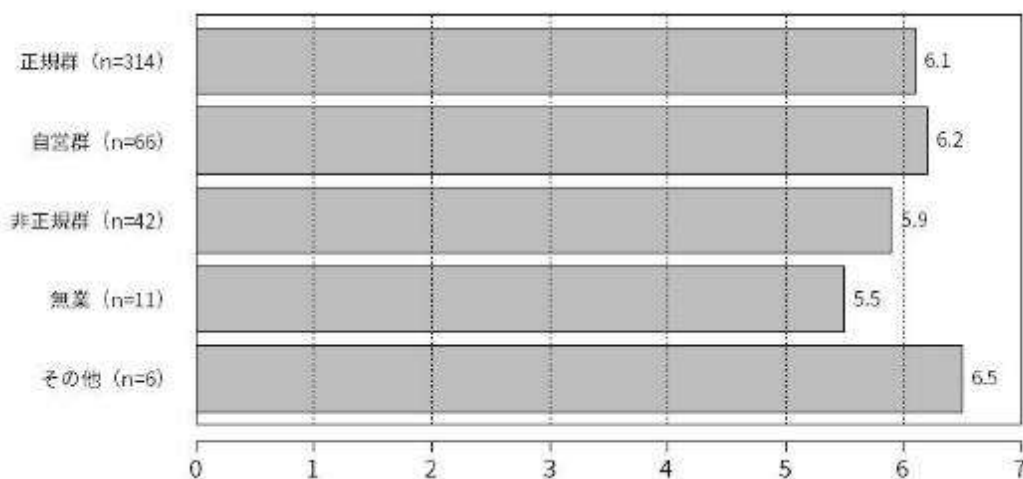
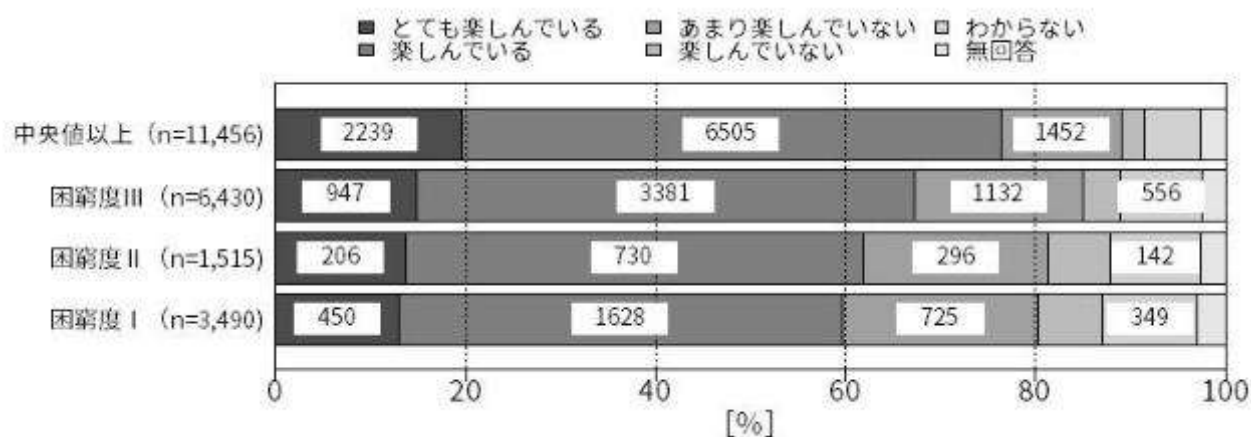


図 198. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」では 6.1 点、「自営群」では 6.2 点、「非正規群」で 5.9 点、「無業」で 5.5 点であった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

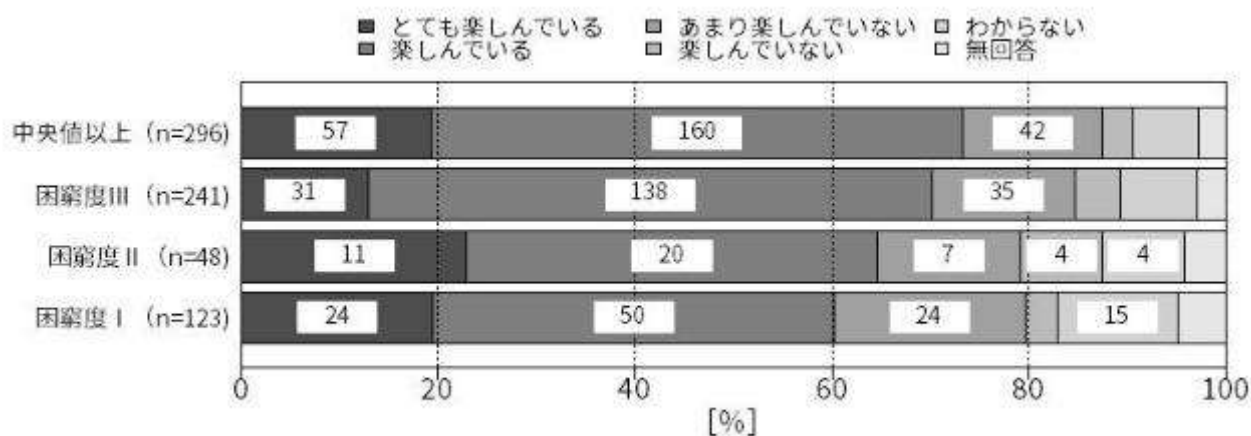
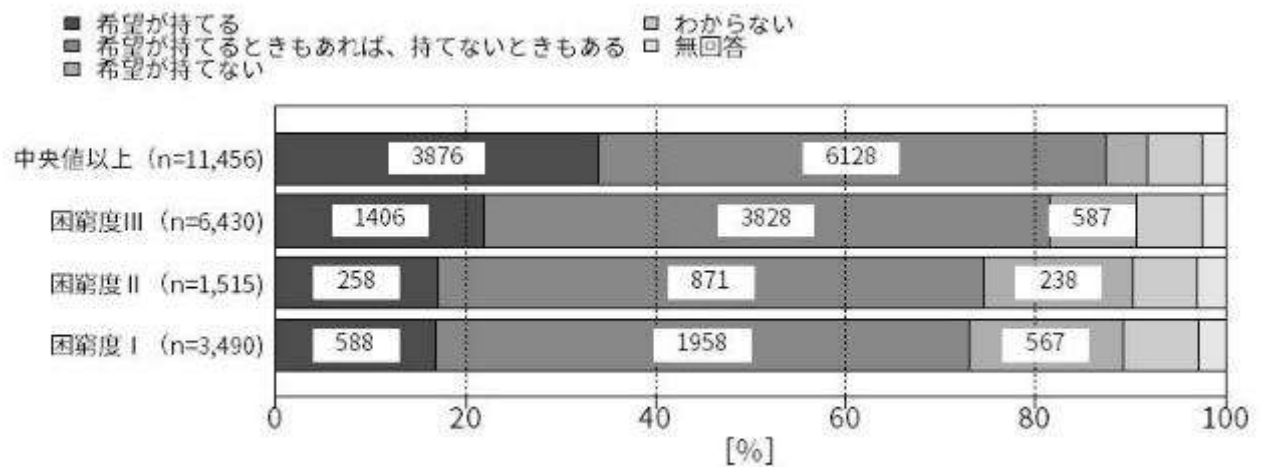


図 199. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせた割合では、中央値以上群が 73.3% であり、困窮度が高まるにつれて、「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」の割合が低くなる傾向にあった。逆に、「楽しんでいる」と回答した割合は、中央値以上群で 3.0%、困窮度Ⅲ群で 4.6%、困窮度Ⅱ群で 8.3%、困窮度Ⅰ群で 3.3%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）（保護者票 問 25 (2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

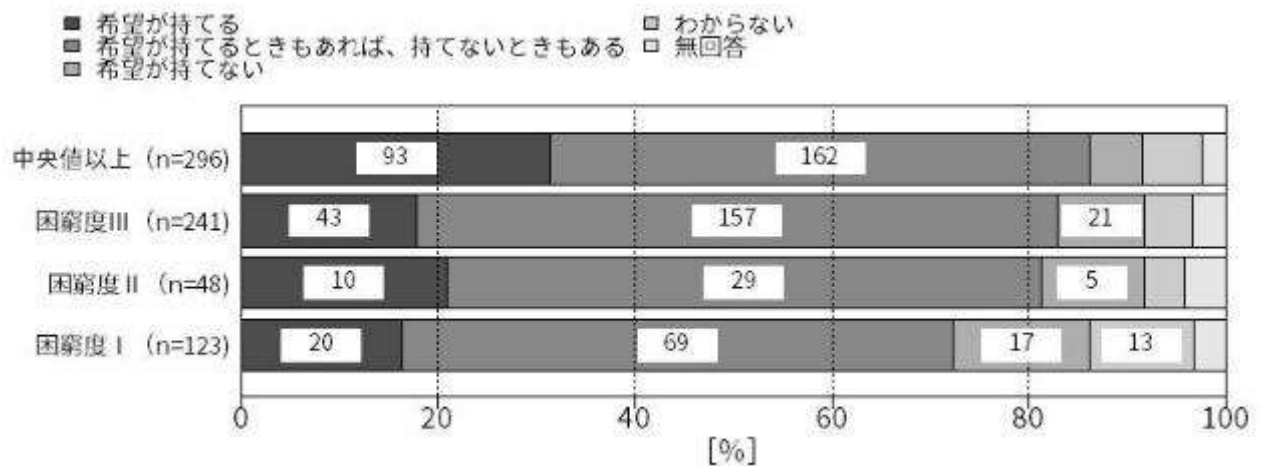
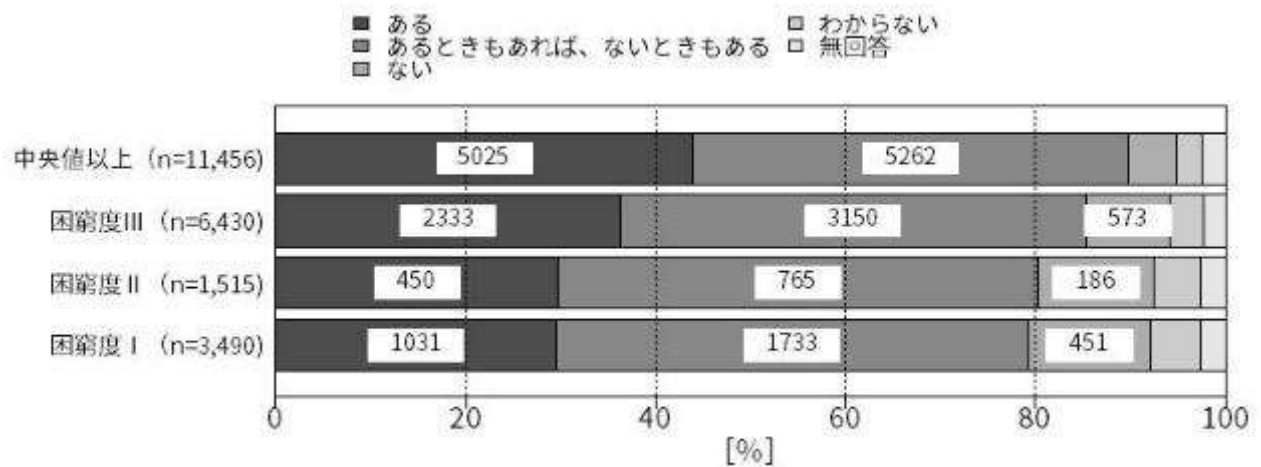


図 200. 困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）

困窮度別に見た将来への希望を見ると、中央値以上群では、31.4%であったのに対し、困窮度Ⅲ群では17.8%、困窮度Ⅱ群では20.8%、困窮度Ⅰ群では、16.3%という結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）（保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

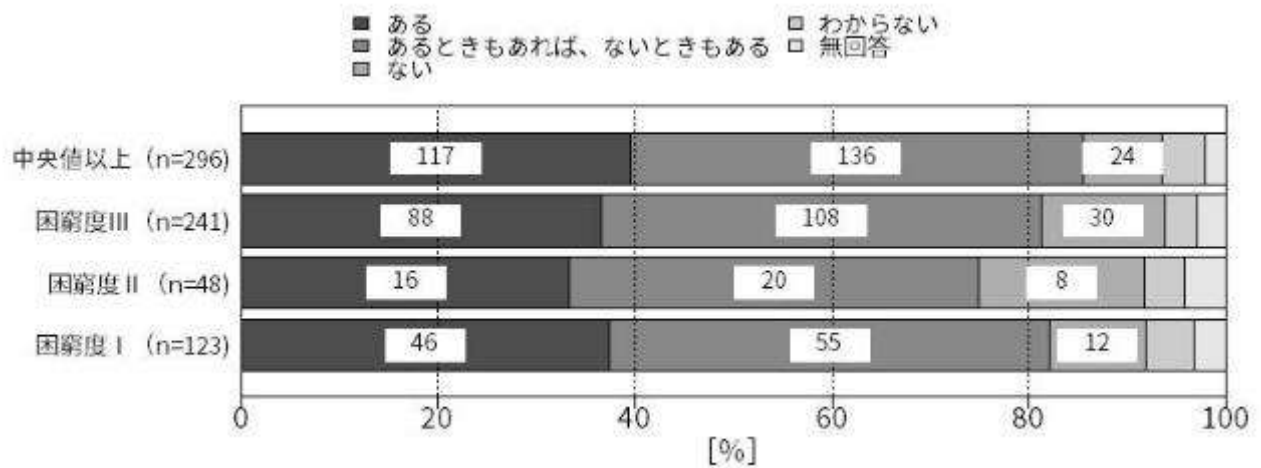
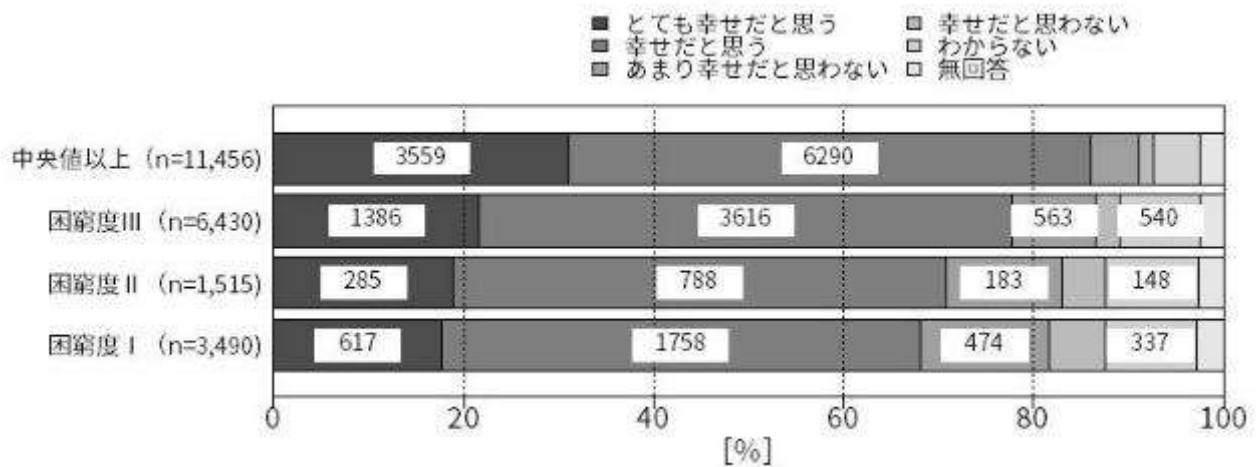


図 201. 困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、中央値以上群では 8.1 %、困窮度Ⅲ群 12.4 %、困窮度Ⅱ群 16.7 %、困窮度Ⅰ群 9.8 %となっている。

困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）（保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

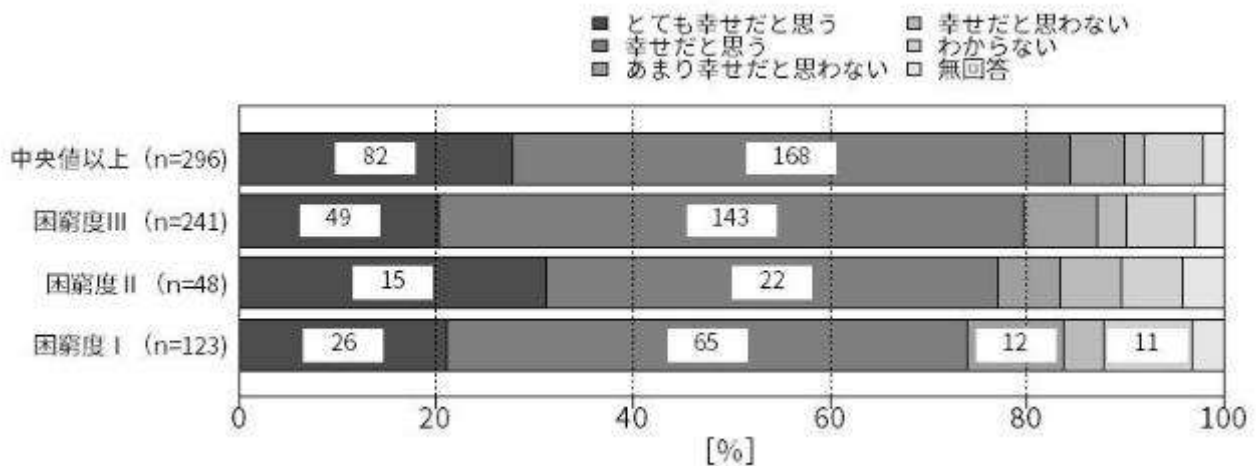
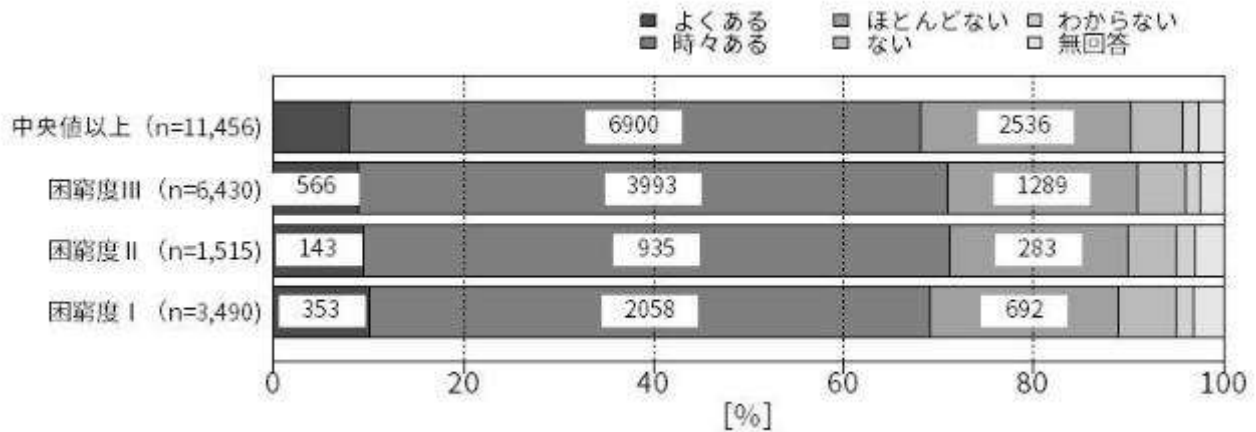


図 202. 困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せと思う」「幸せだと思う」あわせた割合は、困窮度が高まるにつれて低くなる傾向にある。逆に、「あまり幸せだと思わない」「幸せだと思わない」あわせた割合が高くなり、中央値以上群では 7.4 %で、困窮度Ⅲ群 10.4 %、困窮度Ⅱ群 12.5 %、困窮度Ⅰ群 13.8 %となっている。

困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
(保護者票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

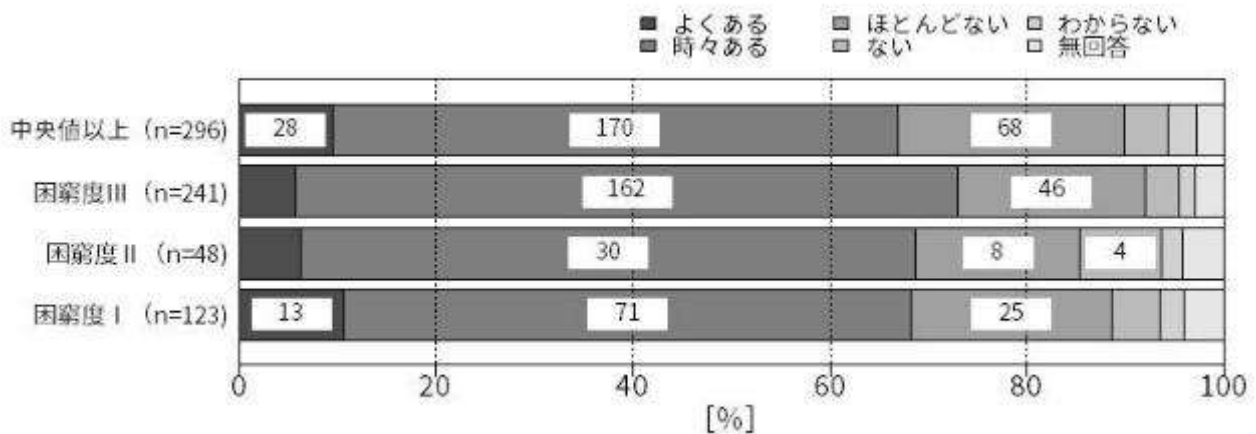
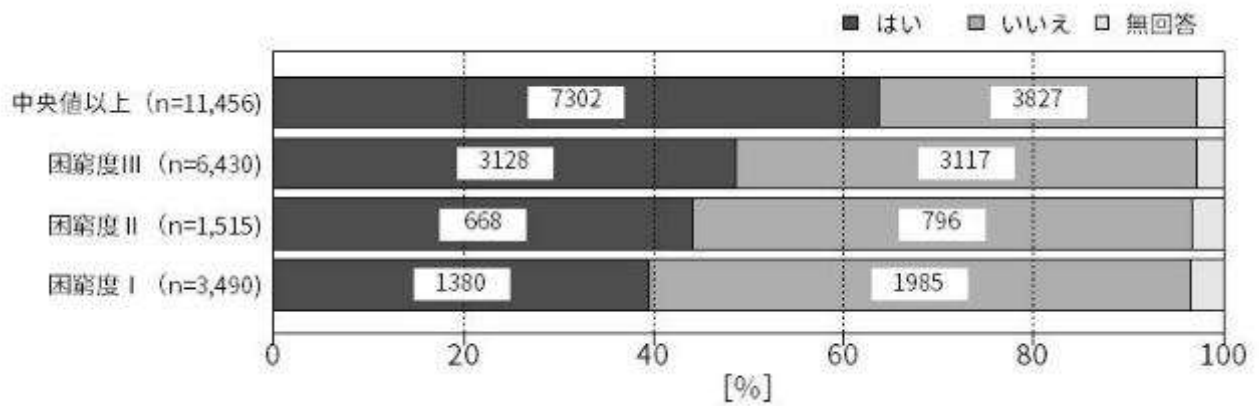


図 203. 困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

困窮度別に見た不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、中央値以上群では、「よくある」9.5 %であったのに対し、困窮度Ⅰ群では10.6 %であった。

困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診（保護者票 問 28）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

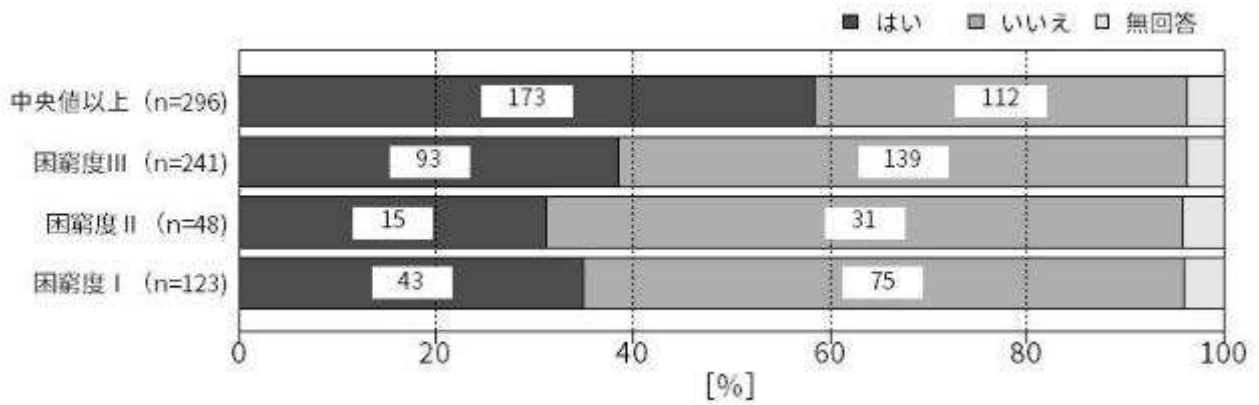


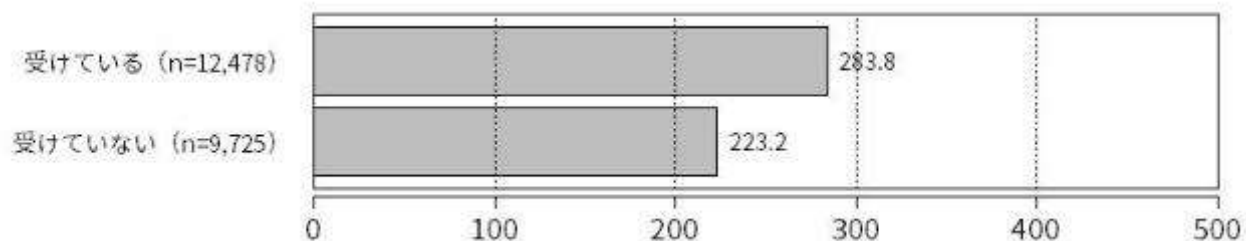
図 204. 困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が 58.4%であり、困窮度Ⅰ群では 35.0%であった。

定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

（保護者票 問 28 × 保護者票 問 7）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>



図 205. 定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

定期的な健康診断の受診別に等価の可処分所得額を算出すると、「受診あり」では 253.2 万円、「受診なし」では 200.6 万円と等価可処分所得について差が見られた。

<健康に関する考察>

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、週に1度も朝食を「食べない」と回答した割合が1.7%となっている（大阪市全体3.6%）。

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が66.0%であり、「週5回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は58.0%と、「毎日またはほとんど毎日」の人のほうが「よく会話をする」の割合が高くなっている。

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.4点（大阪市18.7点）、「週5回以下」では、16.8点（大阪市17.2点）と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが「週5回以下」の人よりも子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。困窮度別に入浴頻度（5歳児）を見ると、困窮度Ⅰ群においても「週に2～3回」以下の回答は見られなかった。

心身の自覚症状（子ども）について、多くの項目で困窮度が高まるにつれて割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「やる気が起きない」34.7%（中央値以上群に対して、約1.6倍）、「イライラする」34.7%（約1.8倍）など、心理的・精神的症状を示す項目での割合の高さも無視できない。心身の自覚症状（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群の数値を多い順に挙げると、「不安な気持ちになる」40.7%「よく腰がいたくなる」39.0%「イライラする」38.2%となっている。

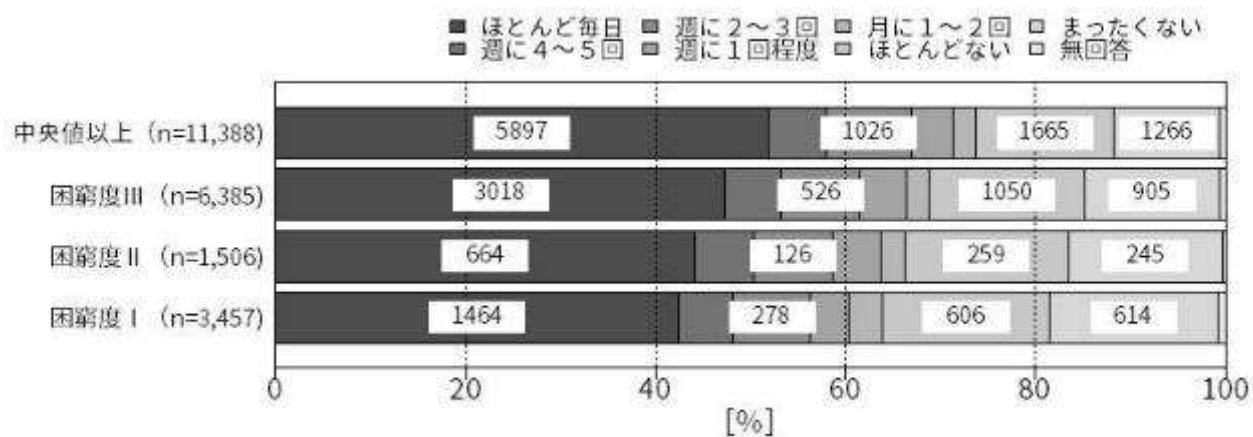
生活を楽しんでいるか、将来への希望、ストレスを発散できるものがあるか、幸福度、を困窮度別に見ると、中央値以上群に対して、それ以外の群では、肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られた。困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、困窮度による大きな差は見られないものの、中央値以上群では、「よくある」が9.5%であったのに対し、困窮度Ⅰ群では10.6%と困窮度Ⅰ群の割合が高くなった。

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が最も高く、困窮度Ⅰ群（35.0%、大阪市39.5%）では低くなっている。

3-4. 家庭生活・学習

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）
（子ども票 問10①）

<大阪市24区>



<大阪市大正区>

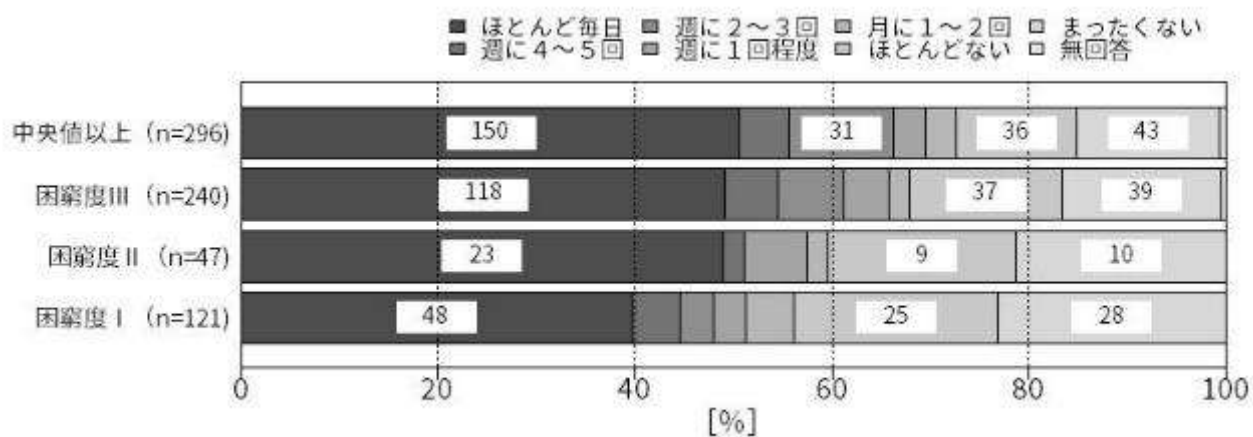
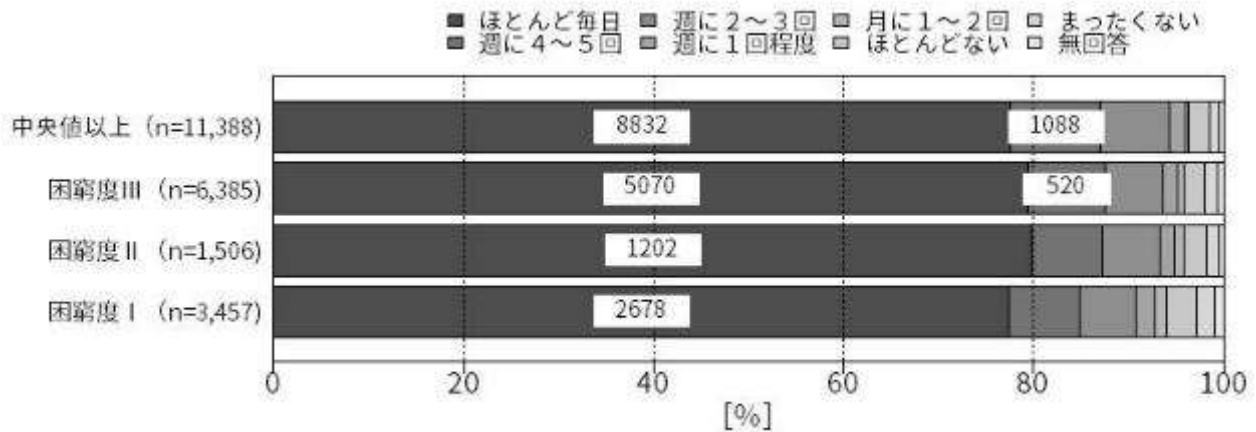


図 206. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にあった。困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が23.1%、「ほとんどない」が20.7%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
（子ども票 問 10②）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

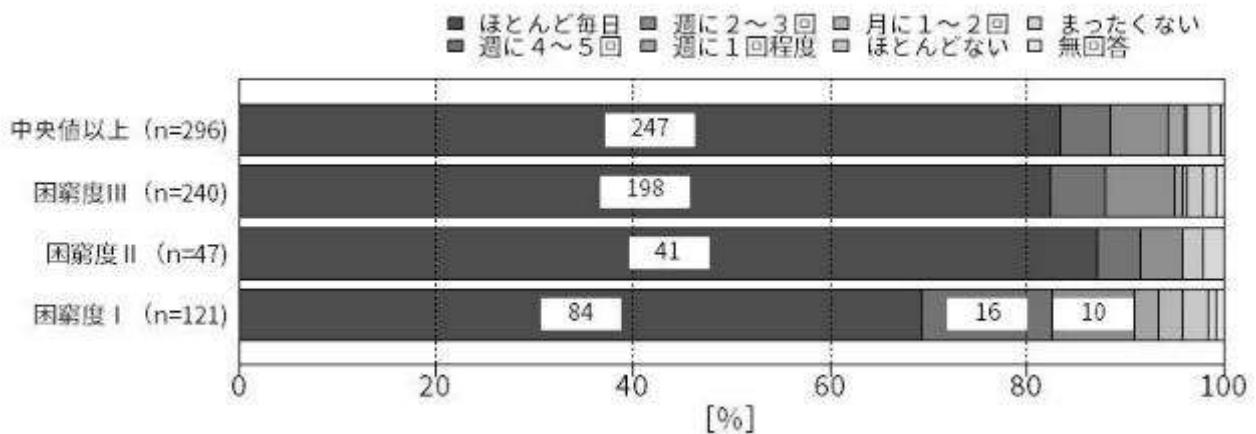
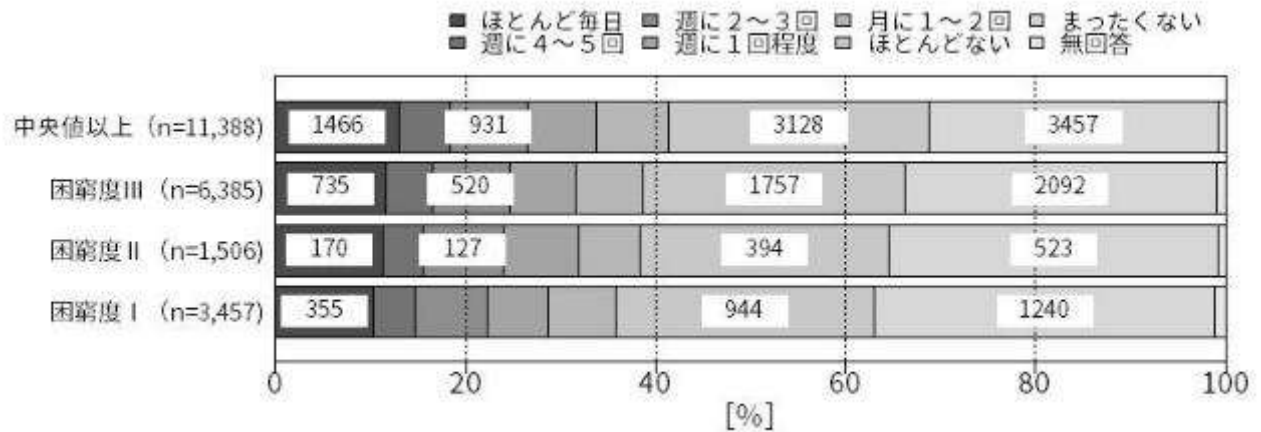


図 207. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、困窮度Ⅰ群では、他の群と比べて「ほとんど毎日」と回答した人の割合が69.4%と低くなっている。また、困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が0.8%、「ほとんどない」が2.5%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（子ども票 問 10⑤）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

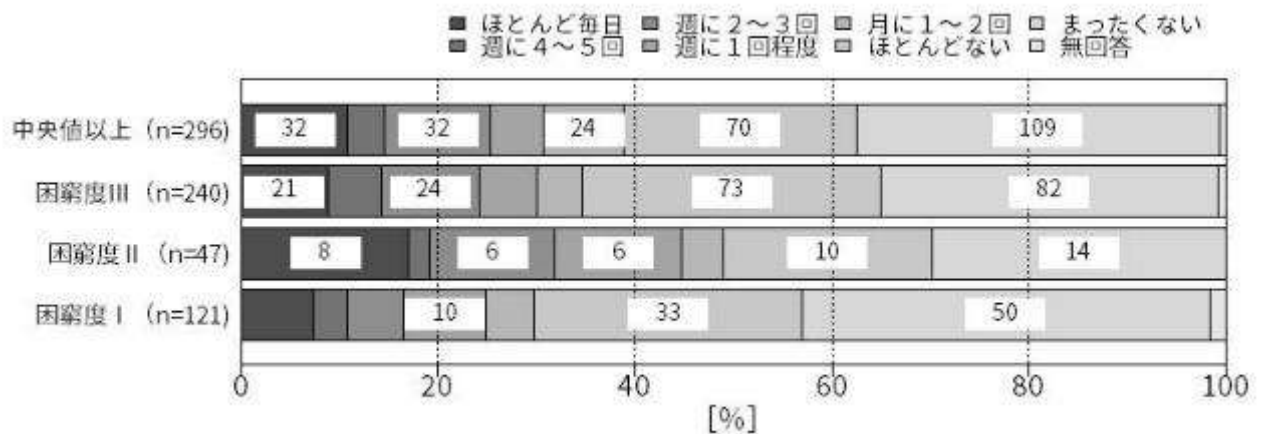
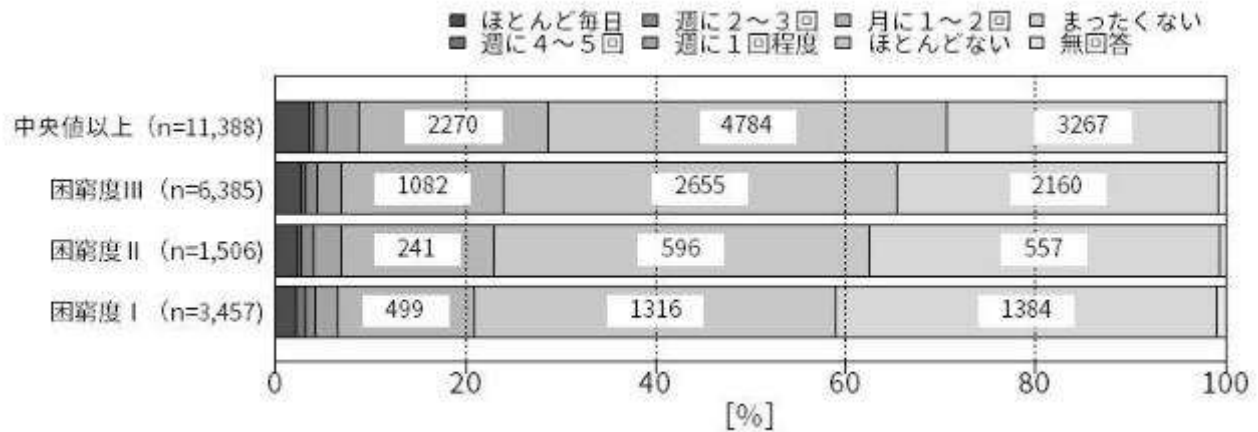


図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が41.3%、「ほとんどない」が27.3%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（子ども票 問 10⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

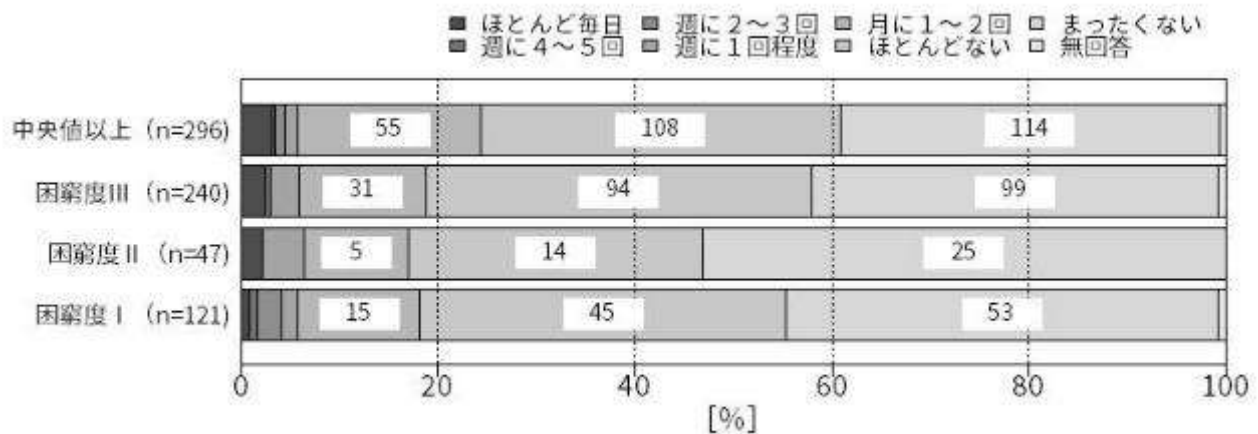
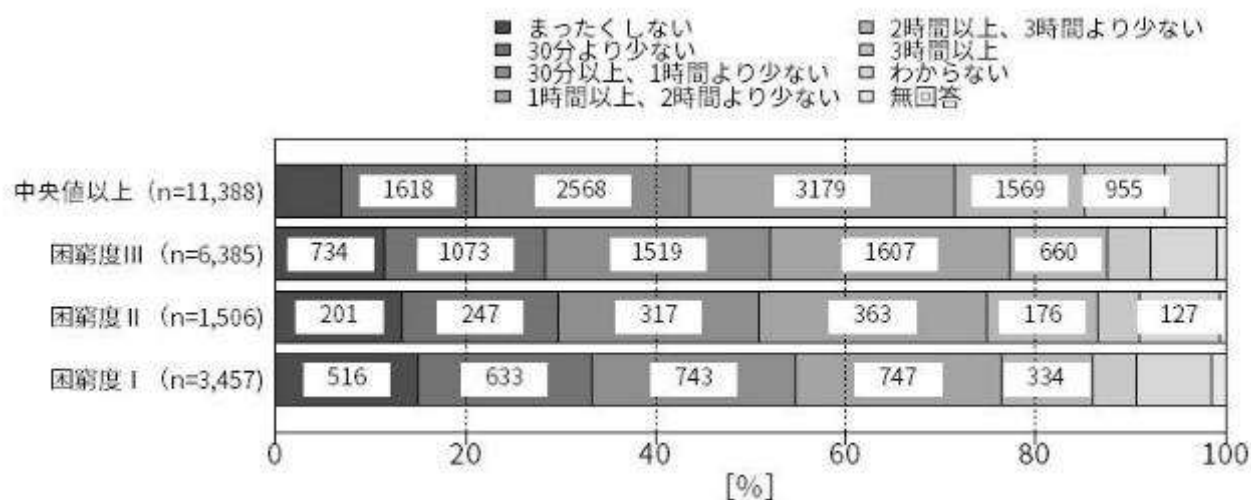


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、困窮度Ⅰ群では、「ほとんどない」と回答した人は37.2%、「まったくない」と回答した人が43.8%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

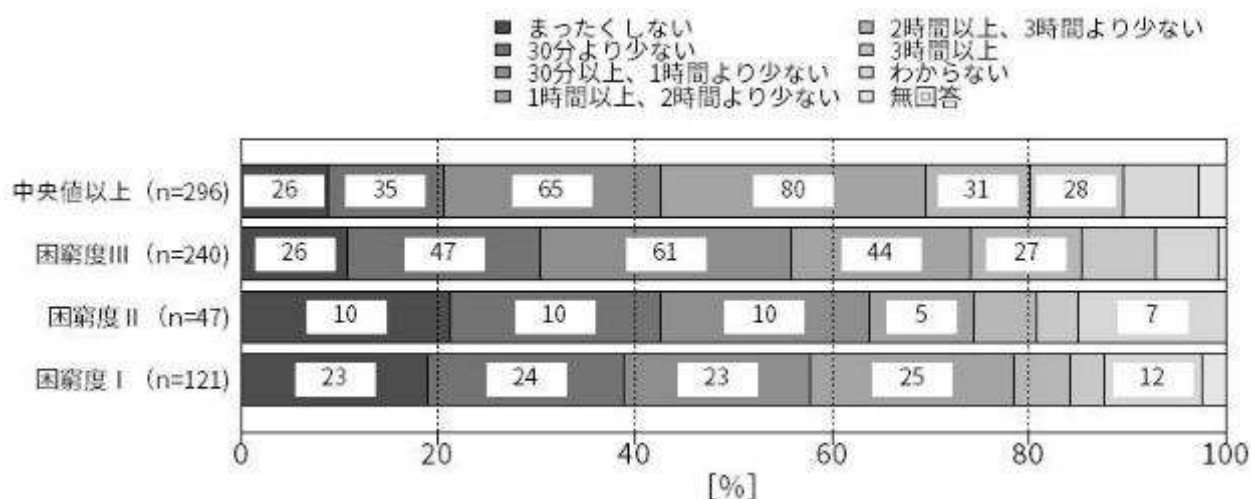
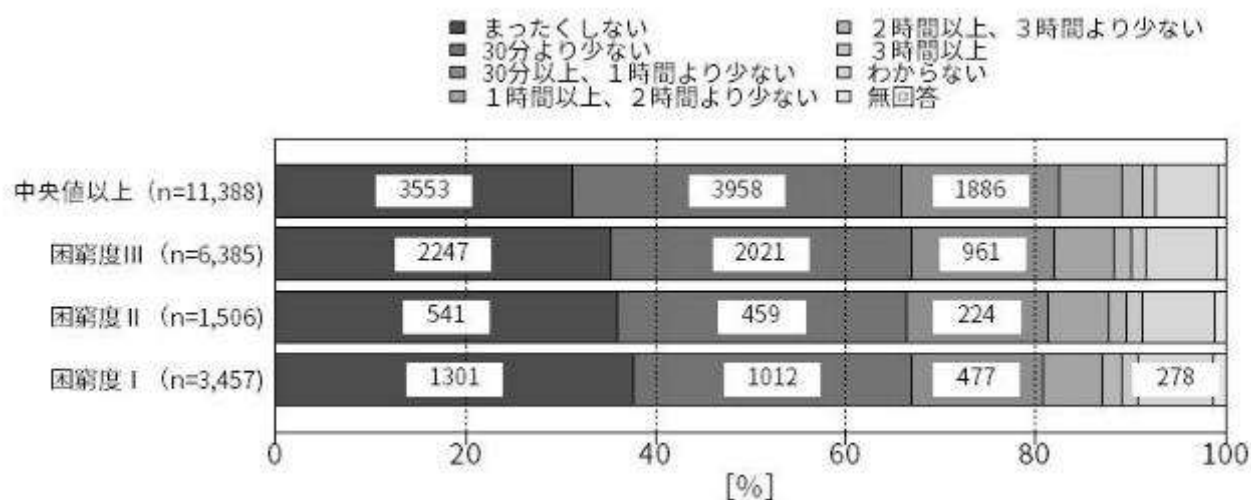


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」・「30 分より少ない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は 19.0%であった。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問 19）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

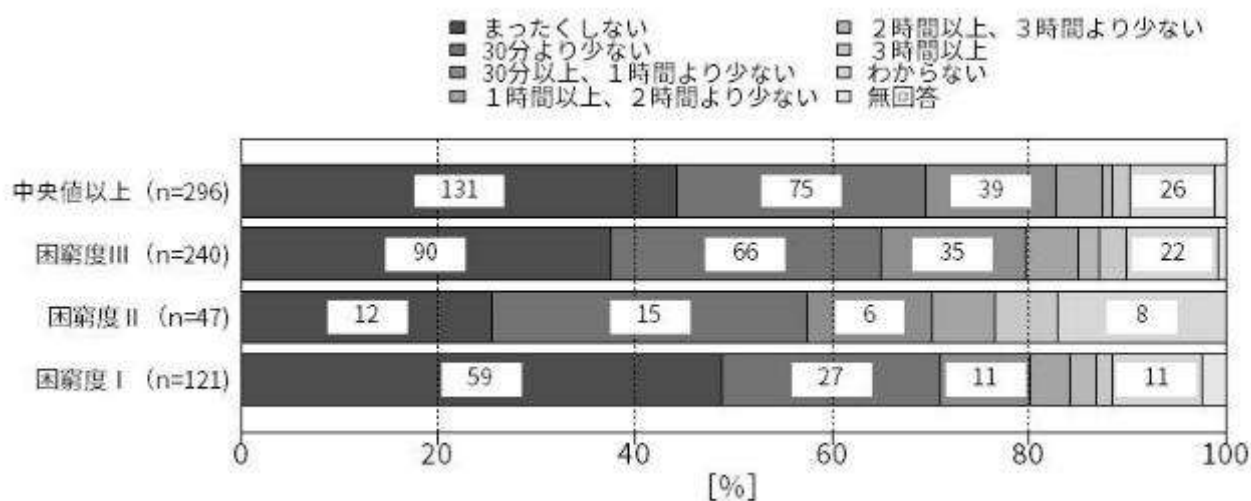
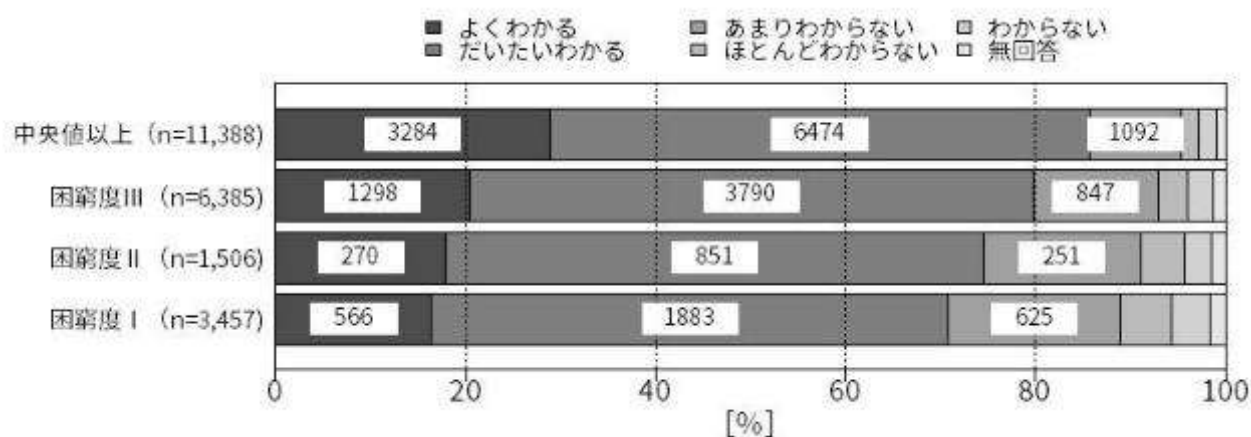


図 211. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が低くなり、困窮度Ⅰ群において高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は48.8%であった。

困窮度別に見た、学習理解度（子ども票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

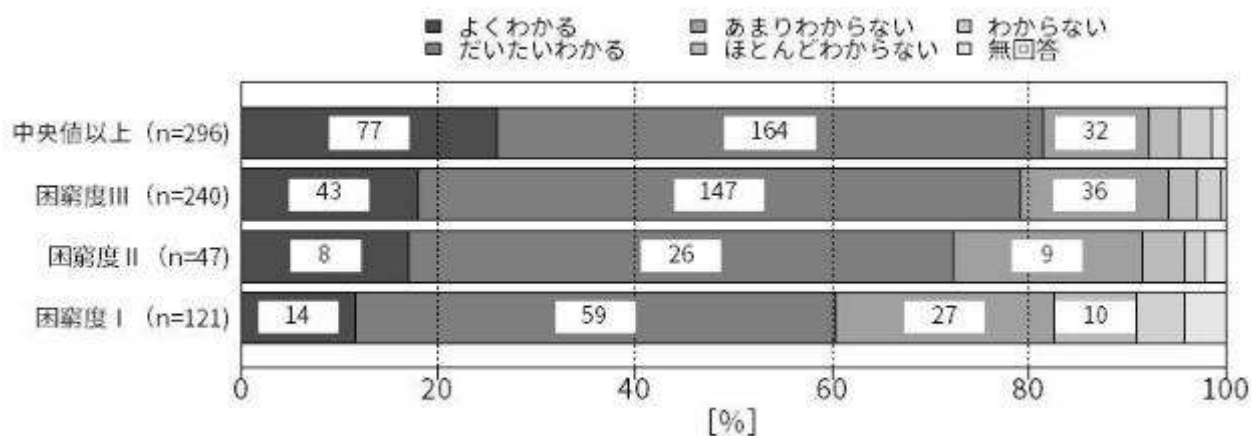
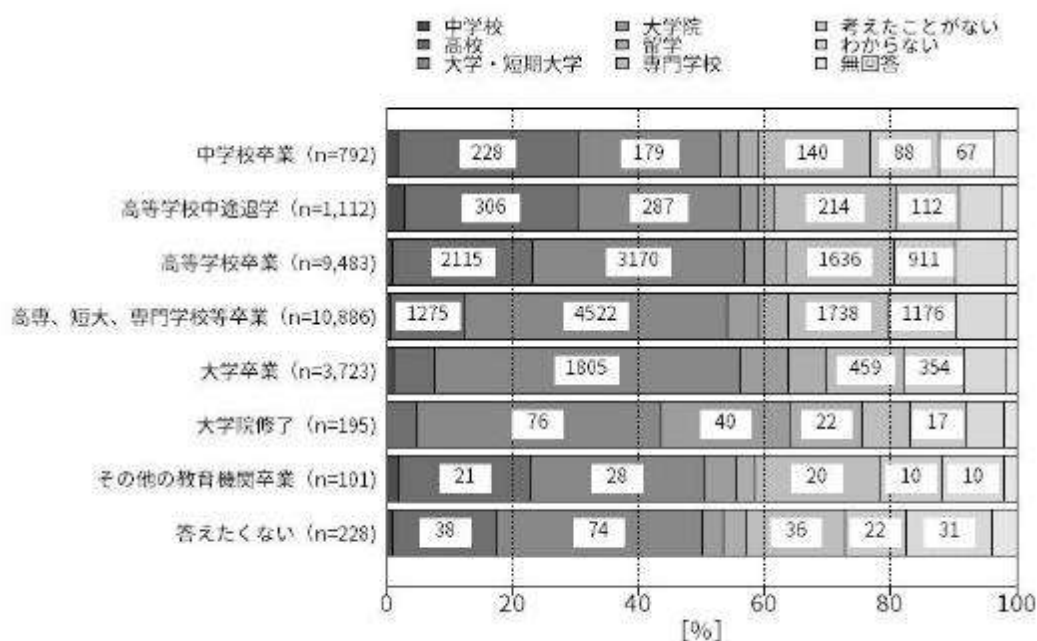


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくわかる」・「だいたいわかる」と回答した人の割合が低くなっている傾向にあった。困窮度Ⅰ群では、「よくわかる」・「だいたいわかる」と回答した人は 60.3%であった。

母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市24区>



<大阪市大正区>

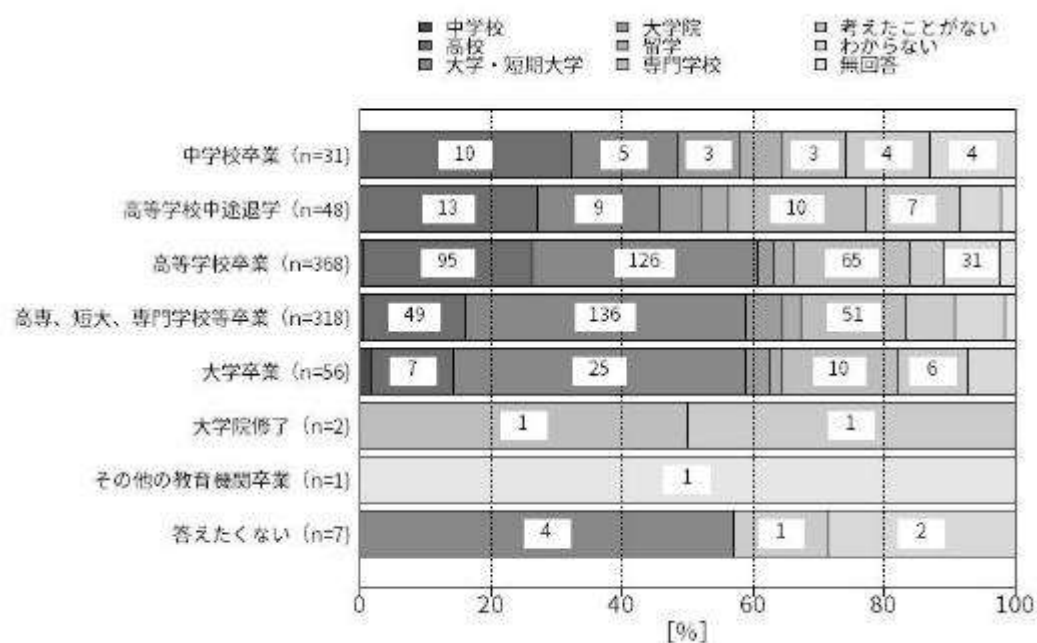
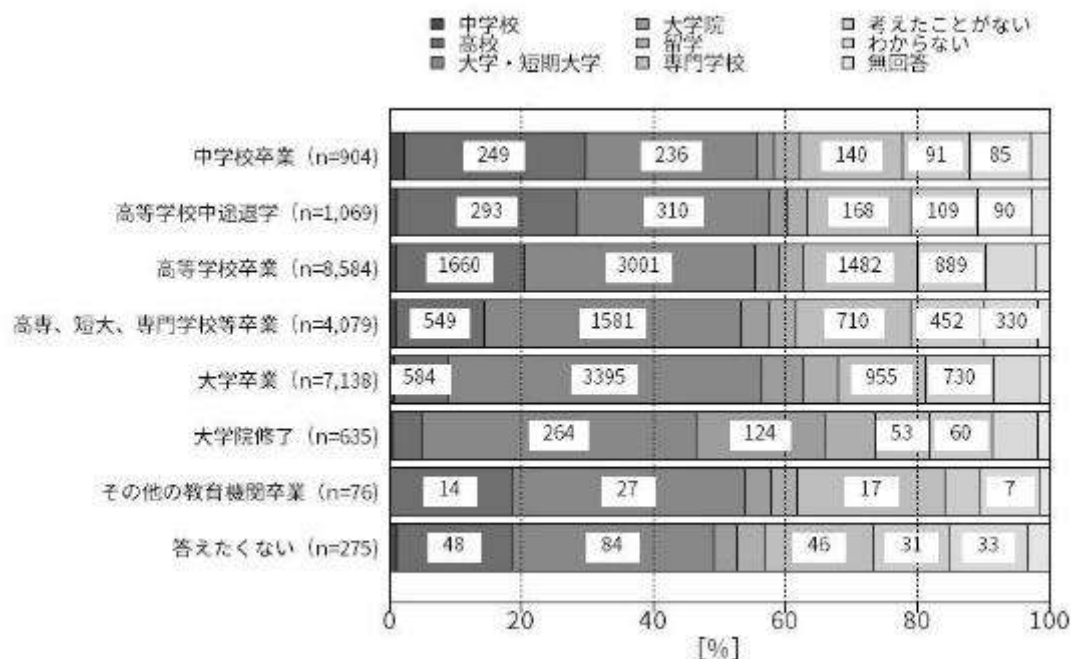


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒から高卒の者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問 8 × 子ども票 問 27）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

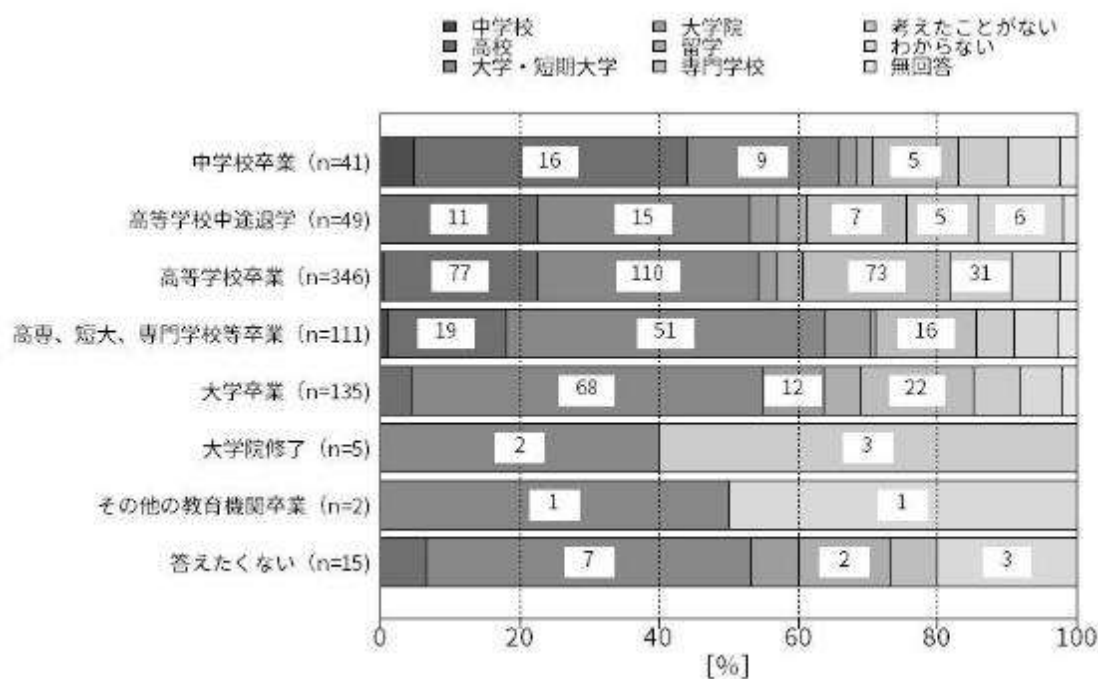
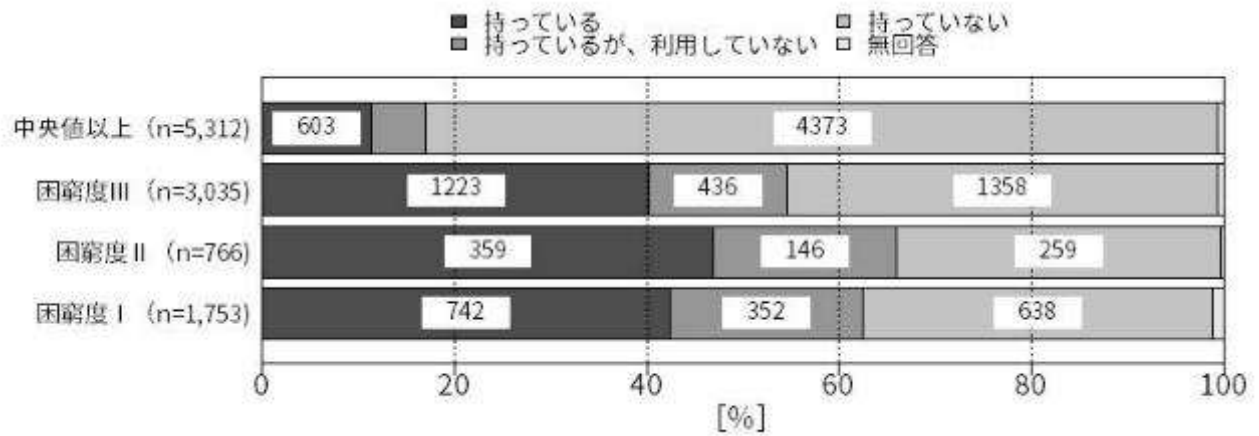


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒から高卒の者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市大正区>

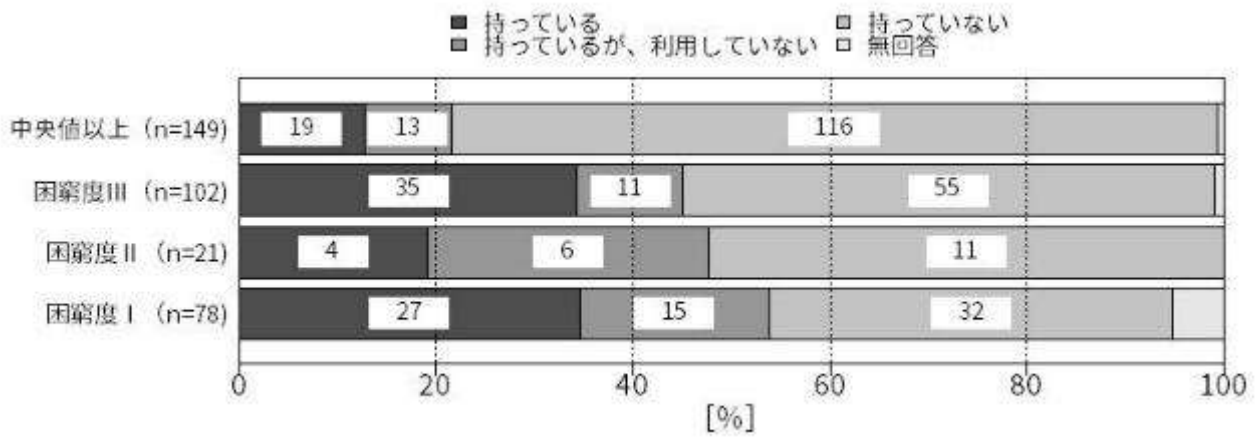
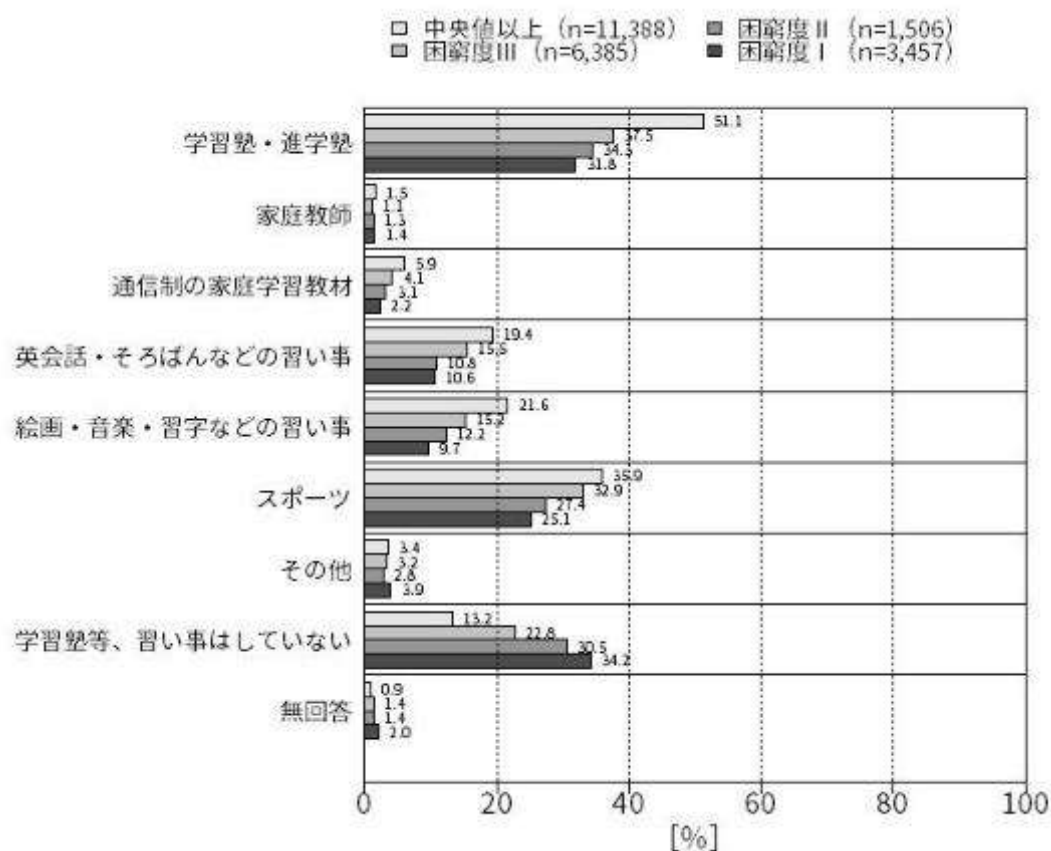


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が 34.6%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 19.0%、困窮度Ⅲ群では 34.3%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票 問 15）

<大阪市 24 区>



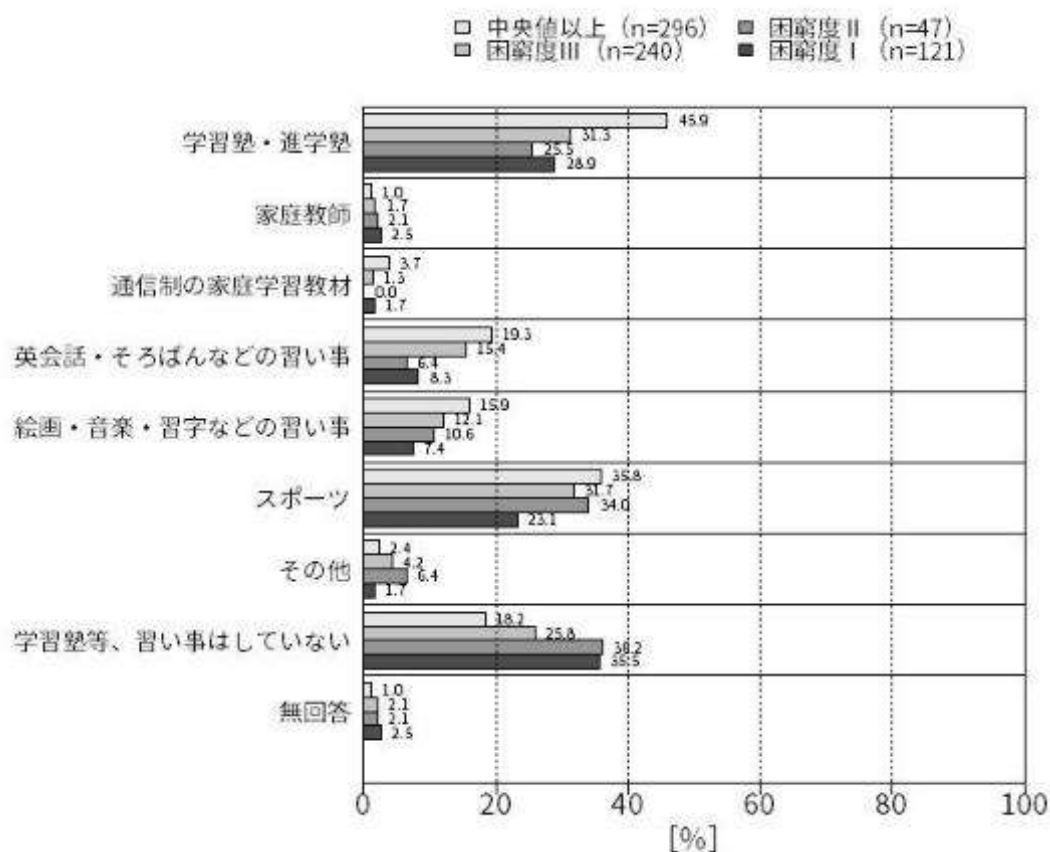


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度Ⅰ群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が28.9%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では25.5%、困窮度Ⅲ群では31.3%であった。「学習塾等、習い事はしていない」と回答したのは、中央値以上群では18.2%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では35.5%であった。